

JA YOUTH

70th Anniversary Book



JA全青協 創立70周年記念誌

全国農協青年組織協議会

JA 青年組織綱領

我々JA青年組織は、日本農業の担い手としてJAをよりどころに地域農業の振興を図り、JA運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、JA青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

JA青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らがJAの事業運営に積極的に参画し、JA運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えたJAの発展のため、自らの組織であるJAの事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しいJA運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

JA青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

JA青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、JA全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川5原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立50周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべきJA青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成17年3月10日制定)。

目次

メッセージ …… 1

挨拶

全国農協青年組織協議会 2024 年度会長
2025 年度会長

祝辞

全国農業協同組合中央会 会長
JA全国女性組織協議会 会長
全国漁青連 会長理事
全国農業青年クラブ連絡協議会 会長
AGIA(イタリア青年農業事業者協会) 全国会長

70 周年記念事業 …… 6

JA全青協 70 周年記念セレモニー・パーティー
70 周年感謝祭 JA全青協マルシェ

JA全青協の歩み …… 8

JA全青協紹介 …… 18

都道府県組織紹介 …… 22

受賞一覧 …… 68

JA青年組織活動実績発表全国大会
JA青年の主張全国大会
JA青年組織PR動画コンテスト
JA青年組織手づくり看板全国コンクール

歴代役員名簿 …… 72

JA青年の歌 …… 73



70年間の歴史を礎に 新たな未来に向けて歩む

全国農協青年組織協議会 2024年度会長 酒井 雅博

全国農協青年組織協議会（JA全青協）が70周年を迎えるにあたり、長きにわたり日本農業、青年組織の発展にご尽力された先輩がた、ご支援いただいた関係者のみなさまがたに心より感謝を申し上げます。

JA全青協は1954年の創立以来、幾度となく試練に直面しながらも、日本の食と農、暮らしを支えるという揺るぎない使命のもと、たゆまぬ活動を重ねてまいりました。戦後復興から急速な経済成長、国際化の進展など、時代の変化に応じて農業、農村の姿も大きく様変わりするなか、わたしたち

青年農業者は地域に根ざし、仲間との活動を通じて、新たな未来を切り拓いてきました。

2011年から取り組みを開始したポリシープック活動は、多くの青年組織に成長をもたらし、いまや活動の基軸として定着しました。ポリシープック活動という、かつて先輩がたがまいた種が今日に至るわれわれの歩みを導き、積み上げてきた活動は今後を支える礎となりました。そして、こんどはわたしたちが次世代に向けて新たな種をまき育てながら、この大きな礎のうえに確かな歩みを積み上げていかなければなりません。

ればなりません。

70周年を迎えた2024年は、食料・農業・農村基本法の四半世紀ぶりの改正が重なる節目の年となりました。記念事業では東京駅前でのマルシェを開催して消費者との交流を図り、さらなる理解醸成に向けた種を新たにまいてまいりました。次の10年に向けては、この種をしつかり育てていきたいと考えております。

70周年という節目にあたり、仲間の結束をより高め、共に汗をかきながら、日本農業の新たな未来を切り拓いてまいりましょう。



感謝を胸に、未来へ向かって みんなで歩む、次の10年

全国農協青年組織協議会 2025年度会長 北川 敏匡

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は、おかげさまで2024（令和6）

年度に70周年を迎えました。この長きにわたる歴史において、関わったすべてのみなさまに心より感謝申し上げます。わたしにとつても、この大きな節目に立ち会えたことは、うれしく、誇らしく、そして大きな感謝の気持ちに包まれております。

さて、日々の営農において、当然のように享受している様々な政策・制度や多くの支援は、これまでの盟友の方々が、その時々現場から思いや声を発信し、問題解決に向け行動したことで

築かれたものです。われわれはいま、その大きな恩恵にあずかっています。

70周年の節目を迎えるまでの10年間は、急激な気候変動や農業生産資材の高止まり、未知の感染症拡大による活動制限など、農業界を揺るがす問題が多く発生しました。そのため、われわれも先輩がたの取り組みを受け継ぎ、未来に問題を残さないよう、解決に向けて活動していかなければなりません。そして、この取り組みの重要性を、次世代の盟友に伝える必要もあります。これは、今を担うわれわれに課された使命です。

現在も農業を取り巻く情勢はめまぐるしく変化していますが、いままさに営農に取り組むわれわれにしかできないことはかならずあります。農業の未来をつくるのはわれわれであり、組織としてみんなで活動することが明るい未来の実現につながります。その積み重ねが、次の10年に続く歴史となっていくはずです。

結びに、今後のわれわれの活動、そしてわが国の農業の発展が明るいものとなるよう祈念し、挨拶いたします。次の10年に向けた活動の合言葉に、「さあ、みんなでやってみよう！」。



共に荒波を乗り越え、 盟友・農業・地域を次代につなごう

全国農業協同組合中央会 会長 山野 徹

全国農協青年組織協議会（JA全青協）創立70周年おめでとうございます。

JA全青協が長きにわたりJA運動、JA事業の先頭に立つてこられたことに、改めて敬意を表します。

全国農業協同組合中央会（JA全中）は一般社団法人への組織変更がありましたが、JA全青協と同じく2024年に創立70周年を迎えました。わたし自身、今年人生の70年目を迎えますから、それぞれの組織の歴史や歩みの長さについては身をもって実感しているところであります。

今から20年前、JA全青協創立50周年の頃を思い返すと、WTO交渉や各国とのEPA交渉が進展し、日本の農

業がガット・ウルグアイ・ラウンド以来の国際化の新たな波に直面している時代でした。

10年前に目を向けてみますと、農協改革によりJA全中が農協法に基づく特別認可法人から、一般社団法人へ移行することが決定した年であり、農畜産物の関税の大幅な引き下げをとまなうTPP交渉が大筋合意に至った年でもありました。農業・農協の歴史を振り返ってもひとつの転換点となる年だったと思います。

そしていま、食料安全保障の強化を柱として25年ぶりに食料・農業・農村基本法の改正が行われたなかで、資材価格の高騰や米不足による米価上昇が

社会的に大きな関心事項となるなど、新たな局面を迎えている時代だと思います。

このようにわれわれ農業者・農協組織はつねに国内外の大きな荒波に揉まれながらも、盟友の団結と協力の力でこれに立ち向かい、農業・農協・地域を次代につなごうとしました。

青年組織の盟友は地域農業の重要な担い手であるとともに、農協運動および地域活動のリーダーになられる方々であります。新たな10年、20年と、そしてJA全青協創立100周年とその先に向け、JA全青協と全国各地の青年組織の盟友のみながまがいつそうご活躍されることを祈念申し上げます。



手を取り合って 「地域の元気」を創る

JA全国女性組織協議会 会長 西川 久美

全国農協青年組織協議会の創立70周年、誠におめでとうございます。長年にわたり、地域農業の担い手として、またポリシールブックの利活用による様々な農政活動など、JAと連携した取り組みをなされておりますことに、心より敬意を表します。

わたしたち生産者を取り巻く環境は、資材価格の高騰など厳しい状況にあります。JAをよりどころとして「協同の力」を発揮し、青年組織・女性組織が手を取り合って「食と農」を基軸とした活動を展開、地域農業の必要性を発信することで苦境を乗り越えることが重要です。

わたしたちJA全国女性組織協議会は、今年度より新たに、JA女性組織3カ年計画「『あい♡』からはじまる『元気な地域』をみんなの力で」を掲げ、「仲間づくり」「地産地消・国産国産」「女性参画」を重点に取り組んでいきます。また次世代を担うフレッシュミズ組織の育成に向けては、青年組織のお力添えもぜひお願い申し上げます。

後継者が未来の農業を語り、地域に根ざした地道な協同活動の積み重ねをとおして、貴協議会がますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



農と漁、次代を担い 共に歩む次の時代へ

全国漁青連 会長理事 阿部 誠二

全国農協青年組織協議会が、創立70周年を迎えるにあたり、全国漁青連を代表して心よりお祝い申し上げます。

また、日頃より「食」と「地域づくり」にご奮闘されております貴協議会のみなさまの活動にたいしまして、心より敬意を表します。

近年、物価高騰や国際情勢の不安定化により、消費者の購買行動や価値観は大きく揺れ動いています。加えて、地球温暖化による気候変動は、農業・漁業いずれの現場にも深刻な影響を及ぼし、生産の安定維持が困難になるとともに、経営リスクも増大しています。

そのような状況下でも、わたしたち日本の重要な食料生産の要である農業と漁業は、今後とも、消費者の信頼を高く維持していきながら、国内において食料の安定供給と消費者ニーズに応えられるものづくりを目指す経済活動に取り組んでいかなければならないと考えております。共に将来にわたり活力と魅力ある第一次産業を構築していきましょう。

結びに、貴協議会のみなすの発展と、みなさまのご多幸をご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



次世代へつなぐ 歩みと挑戦に敬意を

全国農業青年クラブ連絡協議会 会長 前田 彩花

全国農協青年組織協議会創立70周年、心よりお祝い申し上げます。長きにわたり、全国の青年農業者を力強くけん引されてこられた歩みに、深く敬意を表します。

こそが、わたしたち若手農業者にできる挑戦であり、地域や次世代が、自由に、おもしろく生きられる社会へとつながっていくと信じています。

みなさまが築かれてきた歩みは、わたしたち4Hクラブ（農業青年クラブ）にとつても、次代を担う責任と希望を実感させてくれる存在です。

同じ青年農業者として、これからも互いに高め合いながら、希望ある未来を切り拓いてまいりましょう。

教育や福祉など異業種との連携を通じて、多様な価値観が交わることで、その土地に根ざした「新しい農業」の形を創る。それ心よりお祈り申し上げます。



持続可能な農業を 共に目指して

AGIA（イタリア青年農業事業者協会） 全国会長
Enrico Calentini（エンリコ・カレンティニ）

このたび全国農協青年組織協議会（JA全青協）の創立70周年にさいし、AGIAに属するイタリアの若手農家を代表し、心よりお祝い申し上げます。70年という長きにわたり、日本の農業の発展と、若者の育成にゆるぎない献身を続けてこられたことに、深く敬意を表します。

わたしたちは故郷の土地の守り手であり、持続可能な農業のビジョン（アグリツーリズムの経験、事業継承のノウハウ、農家が有する多面的役割を活かした収入向上の取り組みなど）を日本の仲間と共有します。

日伊経済連合会の仲介により、AGIAとJA全青協が友好協定を締結できたことは、両国の農業文化における戦略的パートナーシップの始まりを示す歴史的な出来事です。

日伊間でロビー活動とアドボカシー活動（※）の進め方を共有し、青年農業者がより活躍するための提言を行っていきましよう。今を担う両国の青年農業者が戦略的に連携することで、よりよい農業の未来を世界で実現することができるとでしょう。

※広範な社会課題解決のための働きかけ

70周年記念事業



上／記念パーティーに集結した歴代会長。これまでの活動の軌跡と次の時代を創る盟友へのメッセージが語られた。右／舞台上で講演する森崎博之氏。参加者に熱いエールが届けられた。左／全国から1000人を超える盟友が参加



JA全青協 70周年記念セレモニー・パーティー

第71回JA全国青年大会

2025年2月27日、28日の2日間にわたり埼玉県の大宮ソニックシティで、「JA全青協70周年記念セレモニー・パーティー」ならびに第71回JA全国青年大会を開催しました。セレモニーでは、「農業の応援団長」としても活躍している俳優の森崎博之氏を招き、「日本の食の未来について」をテーマに記念講演を実施。

また、パーティーでは、直近10年のバトンをつないできた歴代会長が集結し、それぞれから熱い思いが語られました。今大会のスローガン「NEVER GIVE UP～新時代へ前進あるのみ～」のとおり“新たな時代に向け力強く前進”するべく、盟友が結束を高める、大切な節目の日となりました。



右／飛躍を誓い、決意を新たにす盟友。左上・左下／大会における特別企画の様子。盟友拡大事例で最優秀に輝いたJAい

70周年を迎えた2024年は、食料・農業・農村基本法の改正もなされた農業者にとって節目の年となりました。食料安全保障への意識も高まるなか、「食」と「農」を次世代につなぐべく実施した記念事業を報告します。



盟友みずから商品の魅力を伝えて販売。屋外の展示スペースでは、動画作品の放映のほか出品商品もPR



東京駅の目の前にトラクターを展示。ふだん体験できない乗車体験は子どもに大人気



70周年感謝祭 JA全青協マルシェ ～70年のありがとう、そしてみらいへ～

大盛況
だったよ!



©よい食P

笑味ちゃん

2024年10月19日に東京駅前のKITTE丸の中で、「70周年感謝祭 JA全青協マルシェ」を開催しました。各ブロック組織と連携し、全国の盟友が生産する農産物・加工品を持ち寄りマルシェが実現。当日は、地域色あふれる旬の農産物・加工品が多く並びました。ふだんは消費者との交流に限られる盟友も、この日は

販売者として「食」と「農」をPRし、商品とともに日頃の感謝も直接お届けする一日となりました。また、屋外スペースでは「農業ふれあい展示」と題して、農業者の思いが込められた動画作品の放映やトラクターの乗車体験を用意。農業者ならではの工夫を凝らした企画でマルシェを盛り上げました。

中国・四国



東海・北陸



東北・北海道



九州・沖縄



近畿



関東甲信越



ブロックごとにブースを設けて商品を販売。全国の盟友が持ち寄った農産物・加工品はすべて合わせると70種類以上に及ぶ。なかには、このマルシェ向け、複数県の食材を使ってつくりあげたオリジナルコラボ商品もあった

J A全青協の歩み

70年という歳月において、農業や農村、食を取り巻く環境は大きく変化していきました。その移りゆく環境のなかでなにを思い、どのように活動したのか、数々の挑戦の足跡を残すJA全青協の歩みを振り返ります。

1945年（昭和20年）

組織の産声

JA全青協の歩みは、初めに、その前身となつた組織の時代までさかのぼります。

1925年ごろ、長野県や静岡県で、現在の農協や生協などの母体となつた産業組合の若手職員が、研究親睦機関として産業組合青年連盟（産青連）を設立。産青連を設立する動きは各地に広がり、若手農業者の参加も経て規模は拡大、1933年には全国組織である産業組合青年連盟全国連合（産青連全国連合）が設立されました。

当時は、日本経済に深刻な打撃を与えた昭和恐慌の真っただ中。とりわけ大きな打撃を受けて困窮する農村を立て直すべく、産業組合は農業者の生活全般を支える総合事業体として発展していきます。一方で、従来の利権を奪われた商業者から産業組合は強い批判を



Column 1

千石興太郎
(1874 ~ 1950)

千石興太郎は、長きにわたり協同組合運動の第一線で活動し、現在のJAグループの基礎を築きました。青年組織の前身となる産青連の設立にも尽力し、いまに続く青年組織活動の先駆者として活躍。その功績に敬意を表し、JA青年組織活動実績発表全国大会の最優秀賞は、「千石興太郎記念賞」として名を冠しています。

浴びます。そこで、産青連はそれに対抗する急先鋒に位置付けられ、対抗運動の中心的存在として活躍しながら、組織の存在感を高めていきました。

しかし、日中戦争、太平洋戦争に突入すると、戦時統制により1942年には政府から解散を命じられ、産青連の活動は幕を閉じることとなります。

主な出来事

1925 年ごろ

産業組合の若手職員により、産業組合青年連盟（産青連）が各地で設立

1933 年

産青連の全国組織として、産業組合青年連盟全国連合（産青連全国連合）が設立

1942 年

戦時統制下において、政府の命令により産青連が解散

1945 年

終戦後、産青連の元構成員などが中心となり、農村青年連盟（農青連）が各地で設立

1946 年

農青連の全国組織として、全国農村青年連盟（全国農青連）が設立

1946年～1960年（昭和21年～昭和35年）

全国農協青年組織協議会の誕生

終戦後、かつての産青連の盟友などは農村青年連盟（農青連）を設立し、農村の復興に向け、活動を始めます。1946年には、全国組織である全国農村青年連盟（全国農青連）も設立し、農村の民主化などを目指す農協設立運動の一翼を各地で担うようになりました。

しかし、農青連はしだいに政治活動に偏向。反発した若手農業者からは、農協をよりどころに農業経営を改善する動きが現れて、1948年ごろから新たに農協青年組織が各地で設立されていきました。その後、全国農青連は全国農民連盟に改組、対象を農業者全体に広げ、農政運動を主軸に据えた性格を明確にする一方、農協青年組織は青年組織としてのアイデンティティを保持しながら、農協運動の推進を第一義に活動を展開しました。そして、1951年には、若手農業者の全国組織設立を目的に「全国農協青年協議会」が東京都で開催されます。しかし、農民連盟や農協青年組織など、成り立ちや性格が異なる

組織が参加した会議は冒頭から紛糾。とりわけ、組織の方向性を「農政活動」と「農協運動」のどちらに重きを置くかを巡って激しく対立。議論は実質的な棚上げ状態となりました。

各地での議論を経て、農協青年組織のあり方や性格が定義されたのは、1953年に栃木県鬼怒川温泉で開催された「全国農協青年部代表者協議会（鬼怒川会議）」でのこと。同会議で農協青年組織のあり方や性格を定義する「農協青年部性格5原則（鬼怒川5原則）」を採択し、これに基づく全国組織の設立を決定します。翌1954年には、正式に全国農協青年組織連絡協議会（後に全国農協青年組織協議会に改称）が設立されました。

1956年には農協青年組織の行動指針となる「全国農協青年統一綱領」が制定され、組織基盤の確立とともに各地の農協青年組織の活動は活発化し、1959年には盟友数50万158人と史上最高の盟友数を記録することとなりました。



歴史的な「農協青年部性格5原則」を決定。鬼怒川会議には1道26県から約100人が参加した

1948年ごろ

農青連の政治活動への偏向に反発した若手農業者が、農協青年組織を各地で設立

1951年

若手農業者の全国組織設立を目的に、全国農協青年協議会を東京都で開催

1953年

全国農協青年部代表者協議会（鬼怒川会議）を栃木県で開催し、「農協青年部性格5原則（鬼怒川5原則）」を採択

1954年

全国農協青年組織連絡協議会（現在のJA全青協）が設立

1956年

「全国農協青年統一綱領」を制定

1959年

史上最高となる盟友数50万158人を記録

JA全青協の歩み

1961年～1980年（昭和36年～昭和55年）

農政運動の展開

1960年代は米価運動が本格化し、JA全青協はその第一線で活躍します。高度経済成長による都市労働者の所得上昇を背景に、都市と農村の格差是正を働きかけ、毎年の米価引き上げは既定路線となっていました。しかし、1967年～1969年は一昨年までの不作から一転して大豊作、食糧管理法下における過剰米の管理コストが批判を受け、1969年には米価の据え置きが決定されました。1970年代に入ると、生産調整面積の都道府県割り当てと米の買入れ制限が実施され、減反政策が開始。以降、米価の引き上げ幅は抑制され、また同時期のオイルショックによる農業資材の高騰は生産者に追い打ちをかけます。1974年、ついに盟友は怒りを爆発させ、「米価要求全国大会」では一部盟友が壇上を占拠する事態が発生します。このような激しい米価運動は、1974



右／1961年、東京都内での米価運動デモ行進の先頭を歩く盟友たち

下／農業の近代化によって、農作業事故が多発した



年の米価が3割以上引き上げという

成果につながったものの、消費者やマスコミの理解を得るには至らず。その反省は、その後、消費者を巻き込んだ活動の展開につなが

主な出来事

1965年

系統組織を挙げた運動により、「労働者災害補償保険法の一部を改正する法律」が成立



農民と消費者の対話集会の開催を契機に、消費者理解促進に向けた活動を開始

1970年

1972年

世界青年会議総会に出席

ることとなります。

また、米価運動の裏で、農業者の社会福祉制度の向上に大きな前進をもたらす、もうひとつの農政運動が展開されます。発端は、1962年に静岡県富士川町農協青年部長が重症を負った草刈り作業中の事故です。当時、農業者には工場労働者のような労災補償はなく、けがを負った盟友の思いをもとに、

消費者理解促進に向けた活動の開始

激しい農政運動を展開するなかで、浮上した課題は消費者の理解獲得でした。消費者理解促進に向けた活動の契機となったのは、1970年に埼玉県、東京都の市民生協と開催した「農民と消費者の対話集会」。以後、米価運動と併せ、鉢植え稲の配布やハガキ・ステッカー運動、PR旗をつなぐ列島縦断米価車リレーなど、様々な活動が展開されていきます。1979年には、全国消費者団体連絡会と共催で、「食糧問題シンポジウム」を開催。消費者団体と交流を深め、活動はさらに活発化していきます。

静岡県青協が問題提起。JA全青協は、農業者への労災保険の適用に向け、実態調査と立法化に向けて動きだしました。1964年にはJA全中の事業計画に盛り込まれ、系統組織を挙げた運動に発展。そして、1965年に、「労働者災害補償保険法の一部を改正する法律」が成立、農業者にたいして労災保険を適用する道が開かれることとなりました。

様々な活動を重ねるなか、とくにユニークであつた活動は、後に実施するテレビCMの制作・放映です。全国の盟友にステッカーやバッジを販売し、集まった資金をもとに「愛こそすべて——新鮮・安心・日本の農産物」をキャッチフレーズとしたテレビCMを制作。テレビ東京で計100回以上の放映が行われたほか、秋田県・山形県などいくつかのローカル局でも放映されました。

また、この活動と並行して、「わたしたちの愛です／新鮮／安心／日本の農産物」をキーワードに看板の制作運動を全国で展開。コンクールを独自に開催する都道府県もあらわれ、現在まで続く「手づくり看板全国コンクール」の実施につながる活動となりました。

1973年

海外研修事業を開始

1974年

米価要求全国大会で、青年組織盟友の怒りが爆発

1974年

列島縦断米価車リレーを展開



J A 全青協の歩み

国際交流活動の進展

農産物の自由化が進められ、国内農業への影響を懸念する動きが強まる一方、若手農業者のなかでは、にわかに海外の農業への関心が高まっていました。

J A 全青協としての海外農業者との交流は 1969 年、内閣府が行う「青年の船」事業に代表 3 人を参加させたことなどが始まりとな

ります。1972 年には、世界青年会議総会に委員長が出席。これらの活動に伴って、海外の若手農業者の訪日も増え、国際交流活動は加速していきました。

翌 1973 年には、「日ソ農業青年交歓セミナー」により、ソ連(当時)の地で初の海外研修を実施。以後、海外研修をはじめとする国際交流活動は、J A 全青協の主要な事業として定着していきました。

1981 年～2000 年(昭和 56 年～平成 12 年)

農産物輸入自由化阻止 に向け結束

高度経済成長は日本に大きな貿易黒字を生み出した一方、海外から農産物市場の開放圧力が強まり、日本は輸入自由化品目を徐々に増やしていきます。1981 年には約 88 億ドルの貿易黒字を記録したものの、欧米諸国と

の貿易摩擦は激化し、翌 1982 年にはアメリカのレーガン大統領がさらなる市場開放を要求し、日本は要求に応じる方針を決定。この事態をきっかけに、J A 全青協は「農産物輸入自由化・枠拡大阻止運動方針」を定め、組織を挙げた反対運動を展開していくことになりました。

しかし、1986 年に開始したガット・ウルグアイ・ラウンドでは米を含めたさらなる

主な出来事

1979 年

全国消費者団体連絡会と共催で、食糧問題シンポジウムを開催

1982 年ごろ

「農産物輸入自由化・枠拡大阻止運動」を展開

1987 年

鹿児島県青協が J A 全青協の会員に復帰、全都道府県青年組織が J A 全青協に加盟

1988 年

「愛こそすべて——新鮮・安心・日本の農産物」をキャッチフレーズとするテレビ CM を制作・放映





上／組織を挙げて農産物輸入自由化にたいする反対運動を実施

右／1993年には農水省前でミニマム・アクセス米受け入れに抗議し、おおぜいの盟友が徹夜で座り込みをした



市場開放を求める動きが発生し、農産物輸入自由化問題はついに日本農業の中核を揺るがすこととなります。このとき、農業へのバッシングは国内外で強まっており、1988年には政府がこれまでの方針を崩し、牛肉・オレンジの輸入自由化が決定されます。翌1989年の「全青協・与野党おむすびトーキング」では、輸入自由化の責任などを巡り、激しい議論が繰り上げられることとなりました。

1990年代に入ると、交渉がもつれたガット・ウルグアイ・ラウンドも最終局面を迎え、J A全青協の市場開放にたいする反対運動はよりいっそう強固なものとなります。

市場開放論が強まるマスコミとの討論会

Column 2

「農協」から「J A」へ、 新シンボルマークの誕生

1992年、農協は新たな愛称として「J A」を採用し、それに伴って「J A全青協」の略称も誕生しました。略称の誕生と併せ、青年組織の新しいシンボルマークの制作も進められ、1993年に現在のシンボルマークが制定されました。「農」の文字を原点に、青虫のキャラクターとして親しみやすくデザイン。デザインを彩る二色は、赤が太陽と情熱、緑が農業と青年を表しています。

を企画するなど、従来にない徹底した運動を展開しますが、1993年に日本は米の部分開放（ミニマム・アクセス米）を前提とした合意案を受け入れることで決着することとなりました。

一方、この時期に押し寄せた市場開放圧力や農業バッシングは、盟友の意思結集を強めるきっかけともなり、1987年には鹿児島県青協がJ A全青協の会員に復帰。J A全青協が設立以来、初めて全都道府県の県域組織が加盟することとなりました。

1993年

1989年

1989年

全青協・与野党おむすびトーキングを開催

「手づくり看板全国コンクール」を初開催



青年組織の新たなシンボルマークを制作

旧ロゴ



新ロゴ



JA全青協の歩み

2001年～2015年（平成13年～平成27年）

食の安心・安全確保に 奔走

2000年代の初頭、過去に類を見ない集団食中毒や次々に発覚する牛肉・鶏肉の偽装、輸入冷凍野菜の残留農薬など、食の安心・安全を脅かす問題が多発しました。なかでも、農業者に大きな衝撃を与えたのはBSE（牛海綿状脳症）問題の発生でした。牛肉の消費

は瞬く間に落ち込み、畜産農家はかつてない苦境に立たされました。

問題が相次ぐなか、JA全青協は消費者の信頼回復、安心・安全な農産物を提供する産地づくりに向け、2003年から「食の安心・安全推進運動」を展開。全国の盟友に運動ステッカーを普及し、盟友自身の意識の高揚と地域住民へのアピールを進め、ステッカーの普及は2年間で約7万枚に達するなど、組織を挙げた運動となりました。

政権交代と 農政運動の転換

2009年、戦後長期にわたり与党であった自民党が実質的に初めて下野し、民主党政権が誕生しました。従来、自民党との連携をもとに農政運動に取り組んでいましたが、政権の交代劇により、政府や与野党の政策

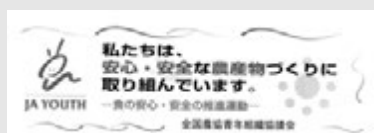
決定者との面会は困難となり、JA全青協は方針転換を余儀なくされます。

2010年、JA全青協は新たな農政運動の確立に向け、政権交代が珍しくないアメリカの農政運動を学ぶべく、代表団を派遣します。首都ワシントンなどを訪問し、現地の農業者団体であるアメリカン・ファーム・ビューロー連盟、ナショナル・ファーマーズ・ユニオンなどと意見交換を実施。そこで、現

主な出来事

2003年ごろ

「食の安心・安全推進運動」を展開



2005年

JA全青協創立50周年記念式典の開催





代表団とアメリカ農業者団体との意見交換の様子

場から課題を積み上げ、行動方針や政策提言を決定する「ポリシーブック」の取り組みを学び、導入の検討が開始されることとなります。

同年、北海道内の上川・十勝・根室の3地区のモデル単組の協力のもと、ポリシーブックの作成を行い、その有用性を確認。そして、新たな農政運動基本方針の決定とともに、全国でポリシーブックの取り組みを開始することとしました。JA全青協においても、都道府県からの積み上げをもとに、2012年に「JA全青協ポリシーブック」を作成。以降、現在に至るまで、毎年その活用と改訂にも取り組んでいます。

Column 3

農協改革について

2014年、規制改革会議から「農業改革に関する意見」が示されたことを発端に、農協改革に関する議論が噴出します。JAグループは「自己改革」を尊重するよう求めますが、翌2015年には改正農協法が成立。JAの理事構成や中央会制度が見直され、併せて施行5年後に改革の実施状況を踏まえ、准組合員の利用規制も検討されることとなりました。

同年、JAグループは第27回JA全国大会にて「創造的自己改革への挑戦」を掲げ、自己改革に取り組むことを決議。同時に、自己改革の評価を問うアンケート調査を兼ねた全組合員を対象とする対話運動を展開し、その回答は390万に及ぶなど、組合員との関係強化を図りました。

そして、改正農協法の施行から5年を迎えた2021年、規制改革実施計画において「自己改革実践サイクル」の構築が盛り込まれ、JAグループの自主的な改革が尊重されることとなりました。准組合員の利用規制についても各JAが総会で判断することとされ、農協改革は事実上の決着を迎えました。

2011年

2010年

2005年

「ポリシーブック」の取り組みが全国で開始

新たな農政運動の確立のため、アメリカへ代表団を派遣

新たな綱領となる「JA青年組織綱領」を臨時総会で採択



J A 全青協の歩み

このように、新たな農政運動の確立に動くなか、2010年に政府は突如としてTPP（環太平洋パートナーシップ協定）への参加検討を表明します。TPPは従来の経済連携協定と異なり、交渉分野が広範に及ぶことから、消費者への影響も危惧。J A 全国女性組織協議会や消費者団体、医療団体などとも連携し、反対運動に取り組みます。2015年には、400人を超える青年組織代表者による「全国J A 青年組織代表者総決起集会」を開催す

るなど、全国盟友の力を結集させましたが、同年には交渉の大筋合意が発表されることとなりました。

2015年は、J A グループにとって大きな転換点となった改正農協法も成立。TPPからの一連の大きな出来事は、全国の盟友に従来の農政運動の限界を感じさせた一方で、ポリシールブックの取り組みを軸とした新たな農政運動の確立が進んでいく大きなきっかけとなりました。

2016年～2025年（平成28年～令和7年）

急激に変化する社会に マッチした活動の模索

時代の変化にも、絶えず対応して活動を重ねてきたJ A 全青協。しかし、2020年代の初頭に、突如として発生した新型コロナウイルスは社会を一変させます。猛威をふるう未知のウイルスは社会のあらゆる活動を制

限、J A 全青協もその後の活動を巡って難しいかじ取りを迫られることとなります。限られた期間で、幾度となく青年組織の本質や活動の意義を見つめ直した結果、導き出した結論は「活動を絶やさない」ことでした。同じく活動に悩む全国の青年組織の先頭に立ち、オンラインツールの使用など方法を変えながらも活動を継続することで、コロナ禍をものともせず盟友の結束をさらに高めていきまし

主な出来事

2015 年

全国J A 青年組織代表者総決起集会を開催、青年組織を挙げたTPP交渉への反対運動を展開



2016 年

J A 全農、日本農業法人協会、全国農業青年クラブ連絡協議会と共同で「生産資材費低減に向けた資材事業研究会（後に農業者団体連携プラットフォームに改組）」を設立

2020 年

J A 全青協Webセミナーを開始

た。こうした盟友の結束がカタチとして表れたのは、2023年に3年ぶりの実開催となった第69回JA全国青年大会。コロナ禍以前とほとんど変わらぬ数の盟友が会場に集まり、困難に立ち向かい走り続けたこの間の活動が、大きな実を結んだことを印象づける大会となりました。

また、コロナ禍の間中は、収束後も見えて「学習」を活動の柱として強化。オンラインツールも有効活用して、新たな活動としてWebセミナーを開始しました。全国の盟友に幅広く学習の機会を提供し、個々のスキルアップにも取り組みました。

2010年代の中ごろから、JA全青協は関係組織との連携も一段と強化します。2016年には、JA全農、日本農業法人協会、全国農業青年クラブ連絡協議会と「生産資材費低減に向けた資材事業研究会（後に農業者団体連携プラットフォームに改組）」を共同で設立。代表的な取り組みのひとつとして、生産者の声をもとに機能を厳選、費用を抑えた農業機械の開発を実現します。

2023年からはJA全中主催の国消国産イベントにも参画。国民理解の醸成に向けた活動を展開し、70周年記念事業のマルシェにもつながる取り組みとなります。2024年は、イタリア農業連盟の青年組織「AGIA」

と友好協定を締結。海外の組織と初の協定を結ぶこととなり、連携の幅はさらに広がりをみせることとなりました。

近年襲いかかった未曾有の事態や急速に変化する社会がもたらしたものは、盟友のさらなる結束と関係組織との連携の強化でした。まさに協同組合の原点に立ち返り、困難を乗り越えた先で、JA全青協はより大きな活動の基盤を築き上げました。70年の節目に培われる「さあ、みんなでやってみよう！」の精神は、築き上げた盟友の結束や関係組織との連携のもと、新たな歴史を刻む活動を巻き起こし、それはかならずや次の世代にバトンをつなげる「未来への第一歩」となっていることでしょう。



左／「生産資材費低減に向けた資材事業研究会」の取り組みを通じて開発が実現した農業機械

下／3年ぶりの実開催となった第69回JA全国青年大会の様子



2021年

「PR動画コンテスト」を初開催

2023年

JA全中主催の国消国産イベントに初参画



2024年

イタリア農業連盟の青年組織「AGIA」と友好協定を締結



JA全青協 紹介

70年の歴史の中で積み重ねてきた活動と若い世代の柔軟な発想が生み出す新しい活動。これらの多彩で魅力的な活動が形づくる組織の「今」について、JA全青協および都道府県別にそれぞれ紹介します。

全国農協青年組織協議会（JA全青協）は、46

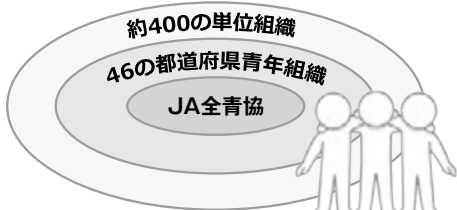
の都道府県農協青年組織協議会を会員に、全国の青年組織の活性化を図り、地域農業の振興と豊かな地域社会の実現を目指すことを目的として、1954年に設立された全国組織です。

各都道府県には、さらに地域ごとで活動する青年組織があり、その数は全国で約400組織、また構成員たる盟友は約5万人に及びます。

JA全青協は、全国の青年組織と連携しながら、現場の声を届ける政策提言や次世代を担うリーダーの育成など、様々な活動を行っています。



青年部のシンボルマーク

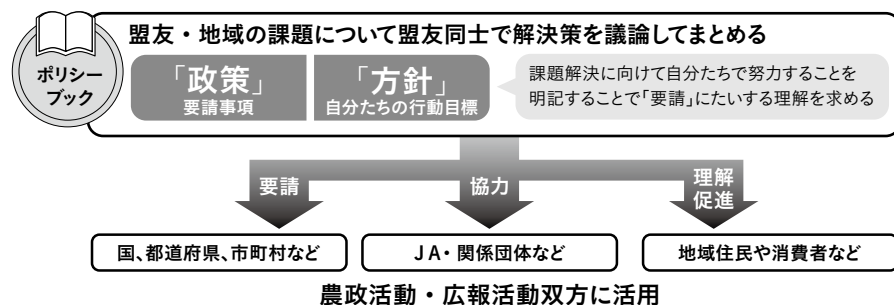


活動紹介

「現場の声」を力に ポリシーブックを 用いた活動

ポリシーブック作成・政策提言

2011年から「ポリシーブック」を用いた活動を行っています。ポリシーブックとは、ひと言で表すと「青年組織の政策・方針集」です。盟友が抱える営農や地域に関する課題とその解決策をまとめたものですが、政策に関する要請事項だけではなく、自らが解決に向けて取り組む行動目標も記載している点が大きな特徴です。そのため、2012年に作成して以来、ポリシーブックの行動目標を踏まえながら活動の展開を図るなど、まさにポリシーブックはあらゆる活



右のQRコードより最新版の
JA全青協ポリシーブックをご覧ください。
URL : <https://www.ja-youth.jp/policybook/>



農業者の思いを 伝える！

作物別・課題別部会の 取り組み

たとえば、青果部会では
「農業の再評価制度」をテーマに…

背景

農業再評価にかかる審査の遅延

農業の再評価制度が導入されたが、当初の想定より審査が遅延。

協議

防除体系の維持に関する懸念を確認

審査中の成分を含んだ農薬の新規・変更登録は見送られるため、防除体系の維持を懸念。

要請

審査の迅速化を要望

国会議員、農林水産省などに、農業再評価にかかる審査の迅速化を要望。

成果

食料・農業・農村基本計画に対応が明記

農業政策の中長期的な方針を定める同計画に、農業再評価を“円滑に”実施する旨が明記。

声を積み上げ、伝える思いが
農業の未来をつくる！

動の基軸にもなっています。
ポリシーブックは、毎年改訂も行っています。
各都道府県組織の委員長・会長が政策提言を協議する作目別・課題別部会（年4回開催）などで意見を集約しながら、ポリシーブック委員会（年9回開催）で各ブロック選出の委員も加わり、改訂作業を進めています。改訂作業を通じて、これまでの課題と解決策をその背景も含めて深く学ぶことは、個人のスキルアップにもつながっています。
また、作目別・課題別部会で練り上げた要請文とポリシーブックを用いて、国会議員や農林水産省などに政策提言も行っています。全国盟



上／作物別・課題別部会の様子
下／2020年、ポリシーブックを用いた野上農林水産大臣（当時）への要請の様子

友の思いと声を積み上げた要請文やポリシーブックは大きな力であり、左図のような社会を動かす成果も上げています。

ポリシーブックの作成・活用支援

各都道府県におけるポリシーブックの作成や活用を支援するべく、全国の盟友を対象とする研修会の開催と年間6組織を対象とした個別支援を行っています。

全国研修会では、ポリシーブックの概要や取り組み意義といった基礎的な内容の講義から、作成・活用の手法を体感するグループワーク、活用に取り組む組織の実践事例報告など、様々な内容を1日を通して学びます。毎回、全国の多くの盟友が参加する人気の研修会となっています。

また、個別支援では、JA全青協役員が講師として出講し、対象の組織で複数回研修会を実施しています。各都道府県と連携しながら取り組みを進め、開始から8年が経過した2024年には、加盟するすべての都道府県で実施することが実現しました。



全国ポリシーブック研修会の様子

共に学び成長する スキルアップと リーダー育成

JA全国青年大会

全国盟友の交流を図り、青年組織活動の強化・発展を目指して、1954年の設立以来「JA全国青年大会」を毎年開催しています。その開催はコロナ禍においてもオンライン形式で継続し、実形式の再開後は全国の盟友が以前と変わらず一斉に集うエピソードが示すとおり、数ある活動



JA全国青年大会の様子



JA青年組織活動実績発表全国大会で最優秀賞を受賞した組織の盟友たち



JA青年の主張全国大会で発表する盟友

のなかでもとくに思い入れの強い活動です。

全国6ブロックの各代表者・組織が、農業への思いや地域、青年組織との関わりなどを語る「JA青年の主張」や創意工夫あふれる活動を発信する「JA青年組織活動実績発表」は大会のメインイベントで、いつも熱い盛り上がりを見えています。

海外研修

これからの地域農業や農協運動を担うリーダーの育成に向け、海外の農業情勢や協同組合を学ぶ現地研修を毎年開催しています。歴史をさかのぼると、初めての開催は半世紀以上前の1973年であり、中断した期間はありながらも、今日まで継続する歴史ある活動です。イタリア農業連盟の青年組織「AGIA」とは、本研修での訪問をきっかけに友好協定の締結に至るなど、海外の農業者組織と交流を深める機会にもなっています。



ベトナムでの現地農業視察の様子



日伊フォーラムの様子

Webセミナー

農業政策や営農にかかる諸情勢・新技術、青年組織の活性化策などをテーマに、盟友の学習に資するWebセミナーを定期的に開催しています。全国の盟友に幅広く学習の機会を提供することを目的に開催しているため、盟友であれば、だれでも参加が可能です。

これまでのテーマ

- 食料・農業・農村基本法の改正
- 農畜産物の適正な価格形成
- インボイス制度の概要と農業への影響
- 農作業事故の未然防止に向けた取り組み
- 青年組織が地域に果たす役割
etc...



右記QRコードのJA全青協HPで、Webセミナーの案内を掲示しています

青年理事・組織リーダー 経営セミナー

盟友のJA運営参画を支援するにあたり、「青年理事・組織リーダー経営セミナー」を毎年開催しています。青年組織出身の役員や外部の有識者を招き、JAの事業運営や地域農業を担うリーダーの果たす役割などについて学び、JA運営参画の実践に活かしています。



識者を招き、JAの事業運営や地域農業を担うリーダーの果たす役割などについて学び、JA運営参画の実践に活かしています。

広がる協力の輪

関係組織との連携

J Aグループ各組織や、ほかの生産者組織との連携にも力を入れています。J Aグループ全国組織の基幹会議には、全国の青年組織を代表して参画し、意志反映に努めています。また、J A全農、日本農業法人協会、全国農業青年クラブ連絡協議会とは「農業者団体連携プラットフォーム」を共に立ち上げ、農業者の声をもとに必要な機能を厳選、費用を抑えた農業機械の開発を行うなど、同じ農業者組織とも連携を図っています。海外の農業者組織とも定期的に意見交換を図っており、イタリア農業連盟の青年組織「AGIA」とは海外組織として初めて友好協定締結を行いました。漁業者による組織である全国漁青連とも交流を重ねており、コラボによる動画を作製するなどし、食の魅力を発信しました。



全国漁青連とのコラボ動画

全国漁青連との
コラボ動画は
こちらから！



イタリア農業連盟の
青年組織「AGIA」との
Web意見交換の様子

活動の「今」を届ける

積極的な情報発信

日々の活動や様々なコンテンツにかかる情報発信も盛んに行っています。FacebookやInstagramでは、各種活動の様子を届けるとともに、Webセミナーをはじめとしたイベント案内も発信。HPやYouTubeでは、各都道府県組織代表によるメッセージやポリシーブックの掲載、過去のJ A全国青年大会のライブ動画やPR動画優秀作品の配信などを行っています。ぜひ一度ご覧ください。



〓 絶賛公開中！ ぜひフォローを 〓

HP



Facebook



Instagram



YouTube



全国に**5万人**の
盟友がいるからこそ、
できることがある！



北海道農協青年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1951 年	100 組織	5202 人

Facebook



Instagram



YouTube



〳 組織のPRをひと言 〳

一致団結！未来へつなげ！ われらはひとつ！

北海道農協青年部協議会は、全道12地区約5000人の盟友と共に、日々切磋琢磨し、日本の食料基地として営農に励んでいます。盟友同士での営農に関する情報交換はもちろん、食農教育・広報活動・ポリシーブックの作成・農政活動に取り組んでいます。



全道JA青年部大会(800人参加)でアームレスリング大会を実施

広大な北海道では、様々な品目があり、課題も多岐にわたります。団結力を発揮し、盟友一丸となって農業を盛り上げるべく活動に邁進しています！

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

道青協主催！食農教育イベントを開催！

消費者に農業への興味関心を持ってもらうため、道青協主催で農業体験などの食農教育イベントを開催しています。とくに、収穫や搾乳の体験は子どもたちも夢中になって挑戦してくれて大好評です！また、大人には農業クイズやてん菜糖の綿あめづくりも大人気です。イベントの様子はSNSでも配信し、フォロワーを増やして、農業ファンをさらに増やすことを目指しています！



食農教育イベント企画の搾乳体験でのひとコマ

Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

米・畑作・酪農すべてがそろい、全国1位の生産量を誇る作物も多い北海道では、各盟友がそれぞれの視点と誇りを持ち、地域の期待と責任を背負っています。個性豊かな盟友同士支え合い未来を創り上げていきます！

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JAたいせつでは、「田んぼアート」に取り組み続けて今年で20年になります！この事業をとおして、地域のみなさまに、春は田植え、夏は田んぼの生き物調査、秋には稲刈り体験をしてもらい、食育にも貢献しています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

われわれの仕事は、日本の食を守るなによりも尊く誇りあるものです。未来に向かって、次世代が夢を持ち続けて営農できるよう、変わらぬ志で仲間と共に支え合い、前を向いて進んでいこう！進め!! 青年部!!!



全道12地区の会長と、道青協の役員、様々な地域から集った個性豊かな仲間たちで集合写真



バリ五輪やり投金メダリスト・旭川市出身の北口榛花選手を田んぼアートで表現

青森県農協青年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1953年	9組織	969人

〳 組織のPRをひと言 〳

四季の恵みと共に、 若き情熱タレント集団

青森県農協青年部協議会は、次世代の農業を担う若手農業者が集まる熱意あふれる組織です。役員会では熱心に意見交換が行われ、技術の向上や地域貢献に熱心に取り組んでいます。全国有数の生産量を誇るリンゴやニンニク、米など、四季の恵みが育む豊かな作物を扱う農業者がたくさんいます。



青森県の農業について熱心に議論する盟友

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

あおもり農業男子

青森県内の農業労働人口が減少するなかで、消費者に農業の現状を知ってもらい、農業の理解促進と若手農業者の魅力発信を目的に、PRキャンペーンを実施しました。各JAで配布される各農家のプロフィールを記したプロマイド風の「あおもり農業男子カード」全8枚を集めて、カード裏面のQRコードから応募すると、抽選で県産農産物が当たるという企画です。



から応募すると、抽選で県産農産物が当たるという企画です。

県産農産物をPRする「あおもり農業男子」のチラシ

Q & A

Q1 ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

青森県では、津軽地方と南部地方で気候や地形が異なり、栽培される作物にはっきりした特徴があります。県青協には両地方出身の



県役員が在籍しているため、視察研修などをとおして情報共有が盛んに行われています。

栽培技術を学ぶ盟友たち

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JAつがる弘前青年部では、2016年から盟友の健康意識向上を目的に毎年健康診断を行い、コロナ禍でも感染対策をしたうえで実施しました。未来の農業を支える青年部員が、



自らの健康と向き合い健康意識を高め合っています。

健康診断では血圧をチェック！

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

今より農業を取りまく環境は大変な時代になっているかもしれませんが、ただ、青年部盟友と共に乗りきり、いい未来を切り拓いてください！ 盟友は一生の仲間となります！

岩手県農協青年組織協議会

設立年	組織数	盟友数
1955年	7組織	979人

Facebook



Instagram



〓 組織のPRをひと言 〓

食育学習で育む明日の担い手

岩手県農協青年組織協議会では食育活動の一環としてJA岩手県信連と共に『いわての農業のなぜ?』という学習本を毎年作成しています。これは岩手の農業を知ってもらうため、盟友たちの営農をモデルに最先端技術や専門的知識を漫画でわかりやすく解説し



小学生向けの学習冊子『いわての農業のなぜ?』

たもので、主に小学校中・高学年に配布しています。これを読んで農業に興味を持ってもらい、未来の盟友が1人でも多く増えることを期待しています。

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

JAいわて純農Boyを輩出!

JAいわて純農Boyとは、県内青年組織の広報大使です。農業青年および青年組織のイメージアップを図るために活動しており、農業・青年組織活動にたいして人一倍熱い情熱を持った盟友です。毎年オーディションで選ばれた純農Boyはスキルアップを図る目的として、JA全青協の海外研修にも参加しています。



県内の青年組織の広報大使
「JAいわて純農Boy」

Q & A

Q1 ここが好き! 自分たちの組織の魅力は?

会議ではよく「とりあえず1回やってみっぺ」の声が上がります。新しい交流事業にBBQを検討したときもこのひと声で協議が進みました。「青年部なんだから1回くらい失敗してもいいべ」の精神が組織の強みです。

Q2 多くの活動のなかで印象的だった出来事は?

設立70周年を記念し、マルシェを開催。ジョンディアトラクターの展示や、ロールペールラップサイロの落書きコーナー、牛乳配布、農産物販売などの催しは大盛況で、地域や盟友とのきずなを深める機会になりました。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは?

われわれは1人ではありません、多くの盟友たちがいます。先人たちから受け継いだ知識と技術を学び、挑戦し続けることが、われわれの成長につながります。10年先の盟友たちに熱い想いをつないでいきましょう。



盛り上がったBBQの様子



ロールペールラップサイロの前で記念写真

宮城県農協青年連盟

設立年

1953年

組織数

10組織

盟友数

1364人

HP



〓 組織のPRをひと言 〓

“Enjoy” 青年部！

年齢も地域も関係ない！ そんな垣根を越えた盟友とのつながりをいちばん大事にして、ポジティブなものに変えていく仲間がここにいます。そして、とことん語り合い、飲み合い、われわれの未来を「つかみ」にいきます。たとえ苦しいことやネガティブなことも、ひとつになればどんなことだって、笑い話としてはねのけられる。“楽しさ”の追求がモットーです。「Enjoy” 青年部！」



県青連役員
「決意を新たに」

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

盟友自慢の農産物をPR

OPEN 前の大規模ショッピングセンターで開催された、子どもから大人まで楽しめるイベント「スペシャル感謝祭」にマルシェを出店しました。仙台市内中心部の消費者に県内盟友の新鮮・安全・安心な自慢の農産物をPR。開店から多くの人が押し寄せ、準備した農産物はあっという間に売り切れしました。消費者の求める農産物は、やはり新鮮で安全・安心なものでなければならぬと実感したイベントとなりました。



マルシェ出品に向けて大忙しで準備

Q & A

Q1

ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

年齢や経営品目にかかわらず言いたいことを言い合えるのがわれわれの強み。意見が違って、お互いに刺激し合える関係づくりをこの先もずっと続けていきたいです。



県青年大会で
語り合う盟友たち

Q2

多くの活動のなかで印象的だった 出来事は？

2011年に起こった東日本大震災への対応です。被災地支援・訪問を続けるとともに、各地からの支援への感謝を伝えるため、県内有志の青年部などが開催した「農魂祭」へ協賛するなど、盟友一丸となり活動しました。



被災地復興支援活動
のひとつ、農産物直売
と餅つき大会

Q3

10年後の盟友に贈るメッセージは？

農業の未来は若手のわれわれの手の中にありません。環境は日々めまぐるしく変わりますが、一人ひとりの盟友が手を取り合って、この荒波を越えていきましょう。

秋田県農業協同組合青年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1953年	13組織	965人

Facebook



Instagram



LINE



〳 組織のPRをひと言 〳

まっすぐ耕す、未来をつくる

秋田県の盟友は愚直に、そして真摯に農業に取り組む若者たちです。先人たちの情熱と志を受け継ぎ、人口減少という厳しい現実に向かいながら、地域の未来を守るために日々汗を流しています。ときにはお酒を酌み交わし、語り合い、互いに支え合いながら、仲間と共に歩んでいます。各種研修会の開催



秋田県農業協同組合青年部協議会の役員一同

やポリシーブックの作成・活用などを継続しながら、次の世代へとつなぐ持続可能な農業のために、まっすぐに耕しています。

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

駅前に集まれ！うめもんマルシェ

毎年8月に秋田の駅前で直売イベントを開催しています。その名もうめもんマルシェ。生産者が消費者のみなさんと直接ふれあいながら、農産物の魅力やこだわりを伝えます。顔の見えるやりとりを通じて、農業への理解を深めてもらうとともに、生産者自身のやりが



いや意欲の向上にもつながっています。地域の「おいしい」を届ける、夏の恒例イベントです。

県内農産物PRイベント
「うめもんマルシェ」

Q & A

Q1 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

2024年度、秋田県の盟友が第71回JA青年の主張全国大会で最優秀賞を受賞！他県でも応用できる主張が評価され、県として39年ぶりの快挙となりました。みんなでつかみ取った栄誉です。



最優秀賞を受賞したJAあきた北青年部・谷本弾さんを囲んで

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

大館市の「比内とりの市」では、JAあきた北の盟友が毎年、比内地鶏の丸焼き「千羽焼」を販売しています。迫力ある見た目も人気で、地元はもちろん県外からも多くのファンが訪れます。



「比内とりの市」で販売される比内地鶏

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

農業者の減少で、ますます県域組織の重要性が増しているのではないのでしょうか？激動の時代の先に、きっとチャンスもあるはずです！仲間を大切に、もっと先の未来のために、歩き続けてください！

山形県農業協同組合青年組織協議会

設立年

1951年

組織数

14組織

盟友数

1473人

HP



Facebook



Instagram



〳 組織のPRをひと言 〳

山形県の農業の さらなる発展を目指して！

わたしたち山形県農業協同組合青年組織協議会（JA YOUTH山形）は、農村青年の同志の結束を固め青年の情熱と協同の力をもって、JA運動の推進と地域農業の振興を図ることを目的とする組織です。山形県内の14組織、1473人の盟友で構成され、青年組織の拡充強化、JA運動の推進およびJA運営への参画、農業経営および地域農業の振興、地域社会への貢献に関する活動などを行っています。



県選出国会議員との意見交換会でポリシーブックを手交

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

「来て！見て！学ぼう！ JA青年部の食農教育」

一般消費者にたいする農業理解促進のため、「来て！見て！学ぼう！JA青年部の食農教育」事業の一環として、毎年「山形県農林水産祭」にJA YOUTH山形で出展しています。県産米消費拡大を図ることを目的に、県青協役員が生産した県産米を用いた甘酒の無料配布や、看板コンクールの一般投票ならびに農業の魅力を発信する動画を紹介しています。



山形県農林水産祭で、看板コンクールの一般投票を実施

Q & A

Q1

ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

年齢や経験にかかわらず、みんな仲がよいこと。考え方や分野が違って、お互いに尊重し、効果を上げるための意見交換ができるのが魅力。困ったときも、役員に悩みを相談すれば、みんなが真剣に向き合ってくれます。



県産米を使った甘酒を無料配布する盟友

Q2

多くの活動のなかで 印象的だった出来事は？

役員会で新規事業や既存の活動の工夫を提案したときに、みんなが話をしっかりと聞いてくれ、それを実行するためにはどうしたらいいか共に考えてくれました。そのとき、この組織の未来は明るいと確信しました！



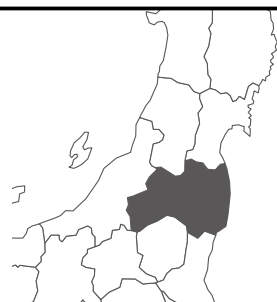
県青協単組委員長・部長・事務局合同会議の様子

Q3

10年後の盟友に贈るメッセージは？

時代の変化とともに、農業はどう変わっているだろうか？次世代、地域、農業の未来のために、新しいことにチャレンジし、学び、精力的に活動を続けることで、明るい未来が待っているはず。共に未来を開拓しよう！

福島県農業協同組合青年連盟



設立年

1948年

組織数

5組織

盟友数

1574人

〳 組織のPRをひと言 〳

全国に先駆けて発足した青年組織

福島県農業協同組合青年連盟は1948年に全国で初めて創設された農協青年組織です。当時より幹事長制を採用し、自主的な青年組織として活動が続いています。また他県の青年組織との交流や食育活動、講習会やソフトボールなどの県内盟友同士の交流、男女の出会いの場の創出など、盟友の関係強化に努めています。さらに政治の面では与党・野党分け隔てなく県選出国會議員に要請活動をし、盟友の政治的自覚の向上にも努めています。



生産現場の声を訴える要請活動

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

支部対抗チラシコンテスト!

盟友を募集するチラシのデザイン性や内容などを競うコンテストを実施しています。県内各支部から応募を募り、どこで何人に配布したかや、受け取った人の反応、今後改善すべき点なども併せて報告してもらう点が特徴。盟友拡大に資するだけでなく、自分たちの組織の魅力や活動の意義を再認識する機会にもなっています。



活動の魅力が詰まった「盟友拡大チラシ」

Q & A

Q1 多くの活動のなかで印象的だった出来事は?

コロナ禍明けに東北・北海道のJA代表者たちが北海道に集まり、「食と農と生命を守る決起集会」を開催。当県青年連盟の発言がJAを動かし、他県を巻き込み、一大イベントに発展したことが印象的でした。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は?

県南地方のJA東西しらかわで毎年夏に行われている「どろんこバレー大会」。老若男女、泥の中ではみんな同じブラックダイヤモンド。この行事がきっかけでゴールインしたカップル多数(諸説あり)。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは?

新自由主義のこの時代、協同の意味を見失うことも。しかし県青連には同じ悩みを共有し、その解決策を持つ仲間がいます。誇りと情熱こそがこれから続く農業人生のかけがえのない宝物になると信じています。



「食と農と生命を守る決起集会」で食料安全保障と持続可能な農業を訴える参加者



「どろんこバレー大会」は30年を誇る伝統行事

茨城県農業協同組合青年連盟



設立年

1951年

組織数

5組織

盟友数

307人

HP



Facebook



Instagram



〳 組織のPRをひと言 〳

どこよりも地元を愛している 自信がある

茨城県農業協同組合青年連盟は現在5組織により構成されています。活動が活発化してきているなか、盟友が日頃から感じている問題点をポリシーブックにまとめ、地元選出国議員にたいして、若手農業者としての立場で要請活動を行っています。また、自分たちの販売力などを高めるため、販売会などを積極的に開催し、地元農産物のPRやブランド力強化に

努めています。



県青連総会の様子

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

マルシェで役立つマナー研修

販売力強化のために、マナー研修会を開催。マルシェなどで消費者と触れ合う機会も多い盟友が、挨拶の仕方、名刺交換や電話対応の方法、表情づくりや農畜産物の魅力的な伝え方など必要最低限のマナーを学びました。研修会後は、消費者に自信をもって接することができるようになり、よりていねいな接客を心がけるようになりました。



名刺交換の仕方について学ぶ盟友たち

Q & A

Q1

自分たちの組織の あるあるエピソードは？

みんなで意見を出し合って実行する取り組みについては、すごい勢いで進んでいきます。懇親会を開催すると、単組の枠組みを超えて、すごい盛り上がりを見せます。なにかを成し遂げたあとのお酒は格別においしいです。



懇親会のひとコマ

Q2

Pick Up! 都道府県下单組の ユニークな活動は？

水戸協同病院でのPR市や、行政と連携した販売会など、各単組が独自に販売会を実施しています。農産物産出額が全国でもトップクラスの茨城県の農産物を、地元だけでなく県外の消費者にも届けるため、日々試行錯誤しています。



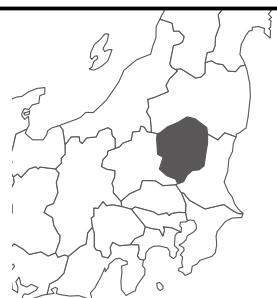
大にぎわいの販売会

Q3

10年後の盟友に贈るメッセージは？

これからの農業情勢はどんどん厳しくなっていくものと思われます。しかし、そんなときだからこそ、盟友同士のつながりを大切にし、一人ひとりの責任を果たすために、あらゆる困難に立ち向かっていってください。

栃木県農協青年部連盟



設立年	組織数	盟友数
1952年	6組織	1092人



〳 組織のPRをひと言 〳

地域農業のけん引役を目指して

どうしても農作業が中心となるわれわれ青年農業者が、農作業以外の様々な体験をできるように、イベントや農政活動を企画しています。様々な活動に参加することで農家としての視野が広がり、農作業中心の考えが地域の農業の未来を見すえた考え方に変わります。このように将来の農業を見すえた盟友が増え、その盟友が地域の農業をけん引し、その姿を見て新たな青年農業者が盟友になる。このような好循環を目指しています。



2025年度の県青連役員

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

JAグループ役員とのガチンコ意見交換！

栃木県におけるJAグループの中核であるJA栃木中央会、JA全農とちぎ、NOSAIとちぎ、農林中央金庫宇都宮支店などの役員と意見交換を行っています。各組織の部長や事務局、そして県青連役員が、農業現場の感覚と各組織役員の感覚の違いなどを中心に、多岐にわたる内容で議論しています。農業の現場が抱える問題を解決し、この先、すべての農家が希望をもって農業を営めるように、忖度なしのガチンコで意見交換をしています。



JAグループ役員と対等に意見を交わす盟友

Q & A

Q1 自分たちの組織のあるあるエピソードは？

農家として生産することの大切さを伝えると同時に、食べることの楽しさも伝えています。いや、ただ単純に食べることが大好きなメンバーが県青連役員にそろっただけかもしれない。健康のためにも食べすぎ注意！

Q2 Pick Up! 都道府県下単組のユニークな活動は？

ぼくの名前は、『青年部太郎』！JAなす南青壮年部のオリジナルイメージキャラクターです。2018年度に誕生し、青壮年部活動を一緒に盛り上げているわたしたちの大切な仲間です。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

人が生きていく以上農業は続いていく。しかし10年後の農業界は想像できないくらい様変わりしているでしょう。その変化に素早く対応できるのは若手農業者です。盟友と情報交換し、つねに最前線を走り抜けてください。



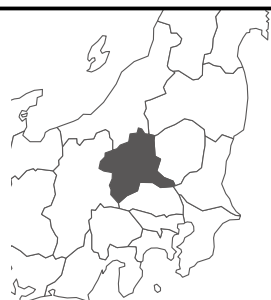
食べるのが好きな盟友の食事風景



青年部太郎

JAなす南青壮年部のオリジナルイメージキャラクター『青年部太郎』

群馬県農協青年部協議会



設立年

1957 年

組織数

12 組織

盟友数

843 人

HP



〓 組織のPRをひと言 〓

上州の大地で未来を耕す！

群馬県の多様な風土と文化のなかで育まれたわたしたち群馬県農協青年部協議会は、農業の未来に真正面から向き合い行動していきます！（一社）AgVenture Labや先進企業を招いた研修会の開催に加え、群馬県の特産物であるこんにゃくの消費拡大PRにも力を入れています。よりよい農業経営の実現を目指して、自分たちで解決できることは率先して取り組み、これからも仲間と共に地域に根ざした農業の未来をつくっていきます！



企業を招いた研修会を開催

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

収穫感謝祭でこんにゃくの消費拡大PR

2024年に開催された「JAグループ群馬 収穫感謝祭2024」にて、群馬県農協青年部協議会は盟友が手がけた生芋こんにゃくを使用した田楽みそこんにゃくのチャリティー販売を行いました。開始からわずか2時間で完売となる盛況ぶり！群馬県の特産物であるこんにゃくを広くPRできたとともに、豪雨災害に見舞われたJAグループ石川への支援として売上金を寄付することができました。



こんにゃくの販売で石川県を応援！

Q & A

Q1 ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

群馬県内の多様な農業に携わる仲間が集まり、情報交換や研修、交流を通じて視野を広げ合えるのが魅力です。仲間とのつながりが励みになり、前向きに農業に取り組む力になります。



交流イベントのひとつ「球技大会」

Q2 自分たちの組織のあるあるエピソードは？

「今日は短め」と始まった会議が、気づけば熱い議論で予定時間を大幅オーバー。意見が飛び交いすぎて本題に戻るのが大変なのも青年部あるあるです。

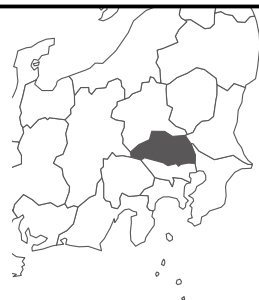


白熱することの多い会議の様子

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

日々変わり続ける環境、情勢により農家数は減り続けるいっぽうです。10年後の盟友は選ばれた優秀な農家だと思います。自信をもってこれからもがんばってください。

埼玉県農協青年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1978 年	13 組織	927 人

HP



〳 組織のPRをひと言 〳

とどけます 彩の国発 大地の恵み

会議は、通常は浦和で開催しますが、夏と冬は、会員組織であるJAや、県外で行うこともあります。夏の会議後に行うポリシーブック学習会では、地元組織でも同様の取り組みができるように内容をわかりやすく説明し、盟友のスキルアップを図っています。盟友間の交流・情報交換を大切に、多様な農業のやり方を学ぶ場やきずなを深める機会を多く設けていま

す。今後も盟友が参加できるイベントを企画し、みんなでつくる青年部にしていきたいです。



議員への要請活動として緊急要望書を提出

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

県内盟友が集う！ 激アツ親睦ソフトボール大会

埼玉県内の盟友が大宮のグラウンドに集い、親睦ソフトボール大会が開催されます。その歴史は古く、今年で45回目を迎える埼玉県農協青年部協議会の一大イベントです。ときには真剣な汗を流し、ときには爆笑を誘う珍プレー。ソフトボール大会は盟友同士のきずなを深めるとともに、地域間交流につながるなくてはならない活動です。優勝チームは関東甲信越

ブロック大会に参加し、県外交流の貴重な場にもなっています。



暑さに負けずプレー！
優勝カップの贈呈風景

Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

行動力があり、農業に関してストイックな組織です。交流会や勉強会、販促イベントなど盟友に声をかければ、しっかり計画を立て参加してくれます。農業に関しても疑問や悩みを共有し解決策を模索できるところが魅力です。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JA南彩アグリストでは、釣り、ラーメン、ソロキャンプ、バイクなどの同好会活動が活発です。農業とはひと味ちがう“好き”でつながるこの取り組みが、盟友同士の自然な交流や関係づくりに役立っています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

埼玉県農業、盛り上がっていますか？都市近郊の立地を活かし、多様な農業があることが埼玉県農業の強みです。10年後の農業がもっともっと盛り上がるように力を合わせがんばってください。わたしたちもがんばります。



県版ポリシーブック作成のための学習会



同好会活動も通じてつながりを深める盟友

千葉県農協青年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1955年	6組織	608人

HP



Facebook



〳 組織のPRをひと言 〳

盟友と共に－千葉県青協－

千葉県農協青年部協議会には、県内17JAのうち6JAの青壮年部が加盟しています。加盟組織数はまだまだ少ないですが、その分つながりは強いです。最近では、パークゴルフ大会を開催し、共に汗を流し、うまい酒を酌み交わしながら交流を図りました。そのほかにも、盟友の婚活支援活動、被災地の農業を支援するBondsネットワークの取り組み、ポリシーブックを活用した要請活動などを実施しています。



ゴルフ大会で交流を図る盟友

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

Bonds ネットワークによる被災地農業支援

2019年9月に本県を直撃した台風15号で、農林水産業は甚大な被害に遭い、さらにライフラインも寸断される危機的な状況に陥りました。このとき島根県青協や関東甲信越地区の都県青協から飲料水などの支援物資の提供を受け、被災地域や盟友はたいへん助けられました。その経験を踏まえ、被災地の農業を助ける目的で支援物資やボランティア派遣を行うための資金を造成するBondsネットワークの取り組みを開始しました。



Bonds ネットワークのチラシ

Q & A

Q1

ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

農作物、地域、年齢にとらわれず「千葉県農業のあるべき姿」を本気で語り合えます。コロナ禍後、新たにパークゴルフ大会の開催や、千葉ロッテマリーンズのJAグループ千葉冠協賛試合でのブース出展などを実施してきました。



千葉ロッテマリーンズJAグループ千葉冠協賛試合で農畜産物をPR

Q2

自分たちの組織のあるあるエピソードは？

県青協会議では、難しい議題は静かになることもありますが、楽しい議題は活発に議論しています。懇親会になると、エンジン全開でさらに活発な議論になり、よい知恵がどんどん出てきます。



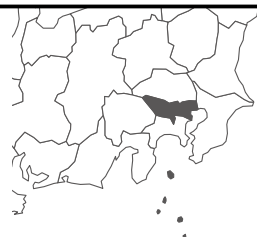
ポリシーブックを活用した要請活動の様子

Q3

10年後の盟友に贈るメッセージは？

JA青年組織綱領には、「われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める」と定められています。年齢、農作物の異なる仲間と共に考え行動し、地域農業を発展させ後世へバトンをつなぎましょう。

JA東京青壮年組織協議会



設立年

1958年

組織数

13組織

盟友数

1721人

Facebook



〳 組織のPRをひと言 〳

最大消費地から農を叫ぶ！

JA東京青壮年組織協議会では、営農活動、組織活動、農政活動の3本柱を軸に活動を展開しています。なかでも代表的なのは、10月下旬に行われる東京味わいフェスタにて実施する「東京やさい畑」です。「畑を都会の真ん中に持ってくる」をコンセプトに、プランターで育てた野菜の展示や収穫体験を実施。さらに畑の写真パネルを設置することで、都会の真ん中で農業をPRしています。



東京味わいフェスタ2024「東京やさい畑」での記念写真

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

空白行政区への出前授業

空白行政区（農地がないまたは10ha未満の特別区）の小学生を対象に、出前授業を行っています。近隣に畑のない子どもたちにとって貴重な機会となっています。この取り組みは、東京都から高い評価を受け、今年で7年目となる継続事業となりました。授業では、盟友のだれもが対応できるよう教材内容を統一し、話法についてもレクチャーを行うなどの工夫を凝らしています。出前授業を経験した盟友には、農業にたいする気持ちにより変化が見られます。



東京都の農業について小学生に説明する盟友

Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

最大の魅力は、地域の垣根を越えた仲間づくりができることです！最近では単組2組ずつの交流会を行っていて、より深く懇親を深めています。多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高めます！



仲間づくりのために交流会を開催

Q2 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

味わいフェスタ「東京やさい畑」です。家族連れがすごく楽しそうに野菜を収穫していたり、展示野菜について興味を持ち声をかけてくれる人がいたり、都会の真ん中に畑を持ってくるコンセプトを実現できました。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

わたしたちは力を合わせ、協同の力を発揮して未来の後輩たち、子どもたちのために活動を展開していきます。10年後の盟友たちにとって、農業が持続可能な産業として継続していけるように日々努めていきます。



都市農業への熱い想いを国会議員に伝える盟友たち

神奈川県農協青壮年部協議会



設立年

1952年

組織数

11組織

盟友数

1388人

Facebook



LINE



〳 組織のPRをひと言 〳

時代に合った都市農業の 確立を目指す！

わが青壮年部には、学校卒業後すぐに親元就農した人、Uターン就農した人、他業種から新規就農した人など、多種多様なバックボーンをもつ盟友がいます。各自が都市農業の強みや、豊かな農地を活かして活躍。各単組では農業まつりへの参画や、体験農園、出前授業などを通じて、消費者理解を深めています。活動後の懇親会では同年代ならではのざっくばらんな交流が盟友の疲れを癒やし、明日への活力となっています。



子どもたちに農作業を教える盟友

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

青壮年部大会で組織を一丸に！！

情勢などを踏まえて今後3年間で取り組むべき活動指針を設定し、盟友一人ひとりが力強く実践していくための認識共有を目的として、青壮年部大会を実施しています！大会は勉強会も兼ねていて、農業に関わりのある著名人などを招いて講演会などを行っています。



多くの盟友が参加した神奈川県JA青壮年部大会

Q & A

Q1

多くの活動のなかで 印象的だった出来事は？

JAグループ神奈川の役職員を招き、青壮年部の盟友と共にゴルフコンペを開催。農業の今後について語らいながら楽しく交流することことができました！



コンペには盟友以外にもJAグループ神奈川の役職員も参加

Q2

Pick Up! 都道府県下単組の ユニークな活動は？

JAあつぎの青壮年部カレー！ゴボウを加えることで、味や風味の深みが増し、ニンジンやジャガイモ、豚肉の食感をしっかり残すことで、食べ応えを出しています。ぜひ、ご賞味あれ!!!



幅広い年齢層に親しまれるJAあつぎの青壮年部カレー

Q3

10年後の盟友に贈るメッセージは？

農業ができるのは、先人たちが大切につないできた農地（自然）と農法（技術）あってこそ。そして先人たちが青年部というコミュニティをつくってくれたおかげ。「おかげさま」の感謝の心、「おたがいさま」の助け合いの心、「おてんとうさま」の自然への畏敬の心、この3つを忘れずに農業を楽しみましょう！

長野県農業協同組合青年部協議会



設立年

1951年

組織数

7組織

盟友数

793人

Facebook



Instagram



〳 組織のPRをひと言 〳

合言葉は人づくり・仲間づくり・組織づくり

長野県は東西約120km、南北約212kmと全国で4番目に大きい県。地域ごとの気候や、栽培品目が異なるため、様々な品目の若手農家が集まっています。JA長野県青年の日・全体親睦会では、県下盟友が一堂に会して情報交換を行い、盟友間の交流を深めています。また、青年部盟友とJA全農長野職員との意見交換を行い、盟友の思い・地域実態・経営課題などを共有し、営農経済事業の新たな取り組みや連携の可能性を追求しています。



県青協70周年
記念写真

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

JA東京むさし 三鷹緑化センター直売会

JA東京むさしと協力し、同JA三鷹緑化センターで毎年11月に開催される「秋の謝恩大売出し」内の「長野県直送物産展」にて直売会を行っています。三鷹市民の方々には「今年も楽しみにしていたよ」と声をかけていただくほど、秋の恒例行事として浸透しています。また、JA東京むさし三鷹支部の盟友との交流を通じて、同じ関東甲信越ブロックの青年部組織として結束力を高めています。



10年以上前から参加している
三鷹市での直売会の様子

Q & A

Q1 ここが好き! 自分たちの組織の魅力は?

南北に200km、標高差800mと様々な環境で営農するメンバーがいます。みんな工夫して栽培体系を確立し、多様な農畜産物の生産を行っているため、災害時には青年組織の叡智を結集して復旧を助け合います。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は?

JA信州うえだ青年部では、女性部と合同でイベントを開催しています。地域の親子を対象とし、盟友の畑で収穫体験をし、その後収穫した農産物を使って女性部が料理教室を行っています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは?

地域を越えた交流が多いのが青年組織の魅力です。同じ情熱を燃やす友と役員として知り合い、共に活動をし、終えてからの親睦もお楽しみのひとつです。あなたに会えてよかったと思える仲間を大切にしてください。



単組部長事務局合同会議の様子



JA信州うえだ青年部が実施している
女性部との合同イベントの様子

新潟県農協青年連盟

設立年

1954年

組織数

10組織

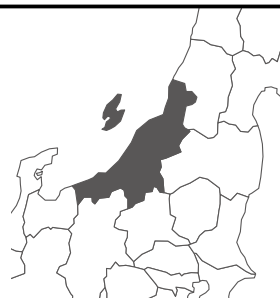
盟友数

1840人

HP



Facebook



〳 組織のPRをひと言 〳

No Agri No Life

～農業のない人生はない～

新潟県農協青年連盟には、県内10組織、1840人の盟友が加入しています。1年間の主な活動としては、○加入促進・活動周知を目的としたメディア広報（ラジオCM）、○盟友の結束力を高めるための交流事業（BBQ）、○農政の知識醸成・担い手育成のための研修会、○JAグループとの意見交換（全農、中央会）、○地域の子どものための農業体験などを通じた食農教育への推進・支援などがあります。



各地区で実施している
子どもたちの農業体験

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

県青連交流事業としてBBQを開催

2024年度から、県内盟友同士の結束力の向上と情報交換を目的とした交流事業（BBQ）を実施することとしました。当日はおおいに盛り上がり、よい情報交換の場であったと手ごたえを感じています。次年度以降は、BBQだけでなく、様々なかたちで交流が図られるよう検討し、これからも長く続いていく事業にしたいと考えています。



県内の盟友を集めてBBQを実施

Q & A

Q1

ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

広い新潟県、地域ごとに多様性があり、世代が近い仲間同士、農業の悩みや工夫をざっくばらんに話し合える雰囲気があります。新しい可能性やチャンスに出合うことで視野が広がり、がんばっている仲間から刺激がもらえます。



地域のリーダーとなる
ため幅広い知識を学
ぶ県青連研修会

Q2

Pick Up! 都道府県下单組の ユニークな活動は？

JAみなみ魚沼青年部では、青年部で「勉強田」を管理し、様々な試験栽培を行いよりよい水田経営を目指した活動をしています。また、行政と連携し、地域農産物のPRやプロモーション動画などを通じて地域の後継者確保や地域農業の振興に取り組んでいます。



行政と連携して
PR動画を制作

Q3

10年後の盟友に贈るメッセージは？

就農したてで不安ななか県青連に加入した盟友がいます。農作業の悩みを共有し、仕事を越えたつきあいをするなかで、きずなが生まれました。あなたも思いもしない新たな出会いや可能性に出合えるはずです。

JA富山県青壮年組織協議会

設立年	組織数	盟友数
1952年	14組織	1821人



〳 組織のPRをひと言 〳

実(巳)いだせ我ら(盟友)の力 繋げ未来の農業へ

～新たなる挑戦とさらなる成長へ～

専業農家だけではなく、兼業農家・農業従事者など色々な立場の盟友で構成されています。会議では「農家者目線」だけではなく「消費者目線」の両方の意見が出てくるため、いままでになかった気づきが多くあります。その気づきを基に新たな取り組みに挑戦をしていける、バランスのよい組織です。



2025年度県青協
役員集合写真

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

富山県選出国會議員・富山県内 青年議員との意見交換会と交流会

富山県選出国會議員との意見交換会(10月)と交流会(2月)を、「青年議員と青壮年農業者による富山県農業を考える会」として、毎年企画・開催しています。県青協役員や、数多くの盟友が参加して、現場・農業・地域にたいする生の声を届けるのはもちろん、意見や要望などを伝えています。会議中は議員からの質問もあるので緊張感を持って臨む一方、懇親会では会場全体が終始笑顔に満ち、参加者にとって毎



年楽しみな活動
になっています。

県選出国會議員との
意見交換会

Q & A

Q1 ここが好き! 自分たちの組織の魅力は?

なんと言っても「アットホーム」な組織です。近年では「兼業農家」「非農家」の盟友在籍により、組織内で「農業者」と「生活者」の視点があり、時代の先を見すえた事業計画を思いきって進められるところが魅力です。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は?

JAみな穂青壮年部では、毎年綱引き大会を行っています。参加者は青壮年部員に限らず、地元の入善高校生や商工会メンバーなども。女性限定で行う「レディースファイト」もあり熱戦を繰り広げています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは?

青年部活動をEnjoyしていますか? 全盟友が主役となり、夢・青年部・農業・JA・地域を語り、情熱と誇りを持ち、胸を張り、自信に満ちあふれた表情、輝き続けられる背中と姿を次世代につないでいきましょう!



「ジョブキッズとやま2025」に参加した
子どもたちと盟友の記念撮影



綱引きをするJAみな穂青壮年部盟友ら

石川県農協青壮年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1956年	10組織	707人

HP



〳 組織のPRをひと言 〳

石川県青協は今年で設立70年！

石川県農協青壮年部協議会は今年で設立70年を迎えます。2024年度は能登半島地震・豪雨災害にたいしての義援金や、全国からの励ましの寄せ書きなどのご支援ありがとうございました。義援金は熱中症対策品の提供や、県農林漁業まつりでの能登支援活動に活用させていただきました。県内青壮年部では、手づくり看板や耕作放棄地保全といった農業理解促進活動、特色のある食農教育を中心に活動に取り組んでいます。



全国の盟友から集まった能登半島地震からの復興を願う寄せ書き

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

耕作放棄地をヒマワリ畑で再耕！

2017年から県下統一活動として、各支部の青壮年部が各地の耕作放棄地をヒマワリ畑にして景観を保全する「石川絆再耕プロジェクト」を展開しています。今では、県内の各所でヒマワリによる活動の輪が広がり、地域活性化の一役を担っています。



石川絆再耕プロジェクト・JA白山青壮年部林支部のヒマワリ

Q & A

Q1 自分たちの組織のあるあるエピソードは？

兼業・非農家盟友が多いため、県・支部役員会は平日の夜に開催し、スポーツ交流会などの県青協行事は土日が中心です。当たり前と思っていましたが、JA全青協の会議にて、他県域では県青協行事が平日開催と知り驚きました。



石川県青協スポーツ交流会の様子

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JA白山青壮年部では地域の消費者を対象にした食農教育活動として、自宅でバケツ稲づくりを体験する「バケツ稲づくりコンテスト」を開催しています。このほか地元米のPR活動として、標高2702mの白山に米を担いで奉納する「白山コシヒカリ奉納登山」も行っています。

JA白山青壮年部の奉納登山



Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

JA青年組織綱領を読んで、なにか感じますか？多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、組織活動の実践による盟友の結束力を高め、青年組織の役割と使命を果たそう！

福井県農協青壮年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1951 年	1 組織	1549 人

HP



〳 組織のPRをひと言 〳

農×食×地域 青壮年部

「農」と「食」、「地域」をキーワードに様々な活動を展開しています。たとえば、学童農園などで子どもたちに向けた食農教育活動を実施するとともに、支店祭りなどのイベントに参加し、盟友たちによるそばの提供など地域に根ざした活動を展開しています。また、リーダー研修会にて営農や地域活動を進めるうえでの課題を洗い出し、その結果を基に政策提言として県選出国議員に現場の声を伝えています。



学童農園での食農教育活動の様子

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

県産米『いちほまれ』を 児童養護施設に寄付

次世代の子どもたちに福井県産米をたくさん食べてもらい、少しでも幸せを感じてもらうことを目的に、県内の児童養護施設5施設にたいし県産米『いちほまれ』を寄付する活動をしています。『いちほまれ』を寄付することで、農業者の集まりである青壮年部の活動をしっかりとPRしています。



県産ブランド米の『いちほまれ』を児童養護施設へ寄付

Q & A

Q1 自分たちの組織のあるあるエピソードは？

農業はおてんとさま次第。役員会などの会議もおてんとさま次第で参加者が増えたり、減ったりしてしまいます。最大限にそれぞれの農業のことを尊重しつつも、まとまるときはまとまります。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

青壮年部の盟友がそば打ち職人に変身。支店祭りなどのイベントにて地元名産のおろしそばを提供して、地域の人たちに国消国産と青壮年部活動をPRする取り組みを展開しています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

10年後、農業を巡る情勢はめまぐるしく変わっていると思いますが、うまく変化に対応し、より多くの盟友が安心して農業を続けられていることを祈念しています。

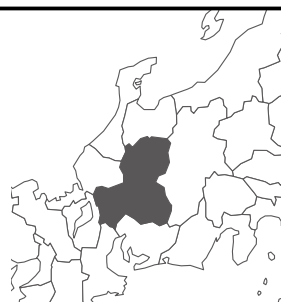


一致団結して取り組んだ県選出国議員への要請活動



慣れた手つきでそばを打つ盟友たち

岐阜県農協青年部連絡協議会



設立年

1980年

組織数

5組織

盟友数

586人

〓 組織のPRをひと言 〓

100回の農作業より1回の飲み会

2025年度から新しい執行体制で運営しています。元川靖夫新委員長は、目指す指針として、「青年部の交流・活動を盛り上げることで、未来の地域の農業・農地を守ることに直結することを信じて疑わない集団になる」を掲げています。すべての青年部の交流・活動が、この目的に向かっているかを確認しながら進めています。飲み会も企画しながら活動を盛り上げていきます。



新執行体制で新たな活動を推進中

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

盟友のつどいを毎年開催

このつどいは、情報交換や相互交流を通じて組織の活性化を図ることを目的に開催していて、県内各地の青年部員ら約100人が参加する毎年恒例のイベントとなっています。内容は、青年部員の圃場や施設などを視察し、自分の農業経営に活かせるよう工夫を凝らしています。懇親会ではお酒を酌み交わしながら、JAや品目の垣根を越えて盟友同士の交流を図っています。



盟友の圃場を視察する勉強会を実施

Q & A

Q1 ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

県の農業施策へ反映させるために、県農業施策学習会や自民党青年局との意見交換会を開催。県議会農林委員会や県農政部との意見交換会も新たに予定しており、青年部から熱い意見を投げかけていきます。



熱い意見が交わされる意見交換会を実施

Q2 Pick Up! 都道府県下单組の ユニークな活動は？

JAぎふ青年部とバレーボール女子チーム「JAぎふリオーナ」は地消地産を広くPRしていくグループ「アグリオ」を結成。イベントなどを通じて消費者へのアピールを強めています。



イベントなどに出向いて地域の農作物をPR

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

地域の農業・農地を守ることと、青年部の活動が盛り上がることがイコールになる世界になっているかな？ 青年部の活動こそが農業の未来をつくる。明るい未来をつくっていきましょう！

静岡県農業協同組合青壮年連盟



設立年

1951 年

組織数

9 組織

盟友数

1142 人

Instagram



〳 組織のPRをひと言 〳

新時代への心技体

生産資材価格の高騰や猛暑、局地的大雨などの異常気象により、これまでの農業の“常識”が通用しない時代へと変化しています。こうした新たな時代に対応し、盟友たちが前向きに挑戦できる環境を整えるためにも、農業経営力の向上や次世代リーダーの育成に向けた研修会の開催、営農を元気に続けるため



第51回静岡県JA青年大会の記念写真

の健康意識の向上、さらに農政活動の強化や組織の垣根を越えたきずなづくりにも、積極的に取り組んでいきます。

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

JA青壮年部リーダー研修会

青壮年部リーダーやリーダー候補者が、協同組合・JA・青壮年部組織への理解を深め、組織をけん引する資質の向上や次世代リーダーの育成を目的に研修会を実施しました。JA全青協元会長や中央会職員、企業経営者を講師に招き、多角的な視点からリーダー像を学びました。参加者からは、「青壮年部の役割を再認識した。今後に活かしたい」との声が寄せられました。

JA青壮年部リーダー研修会を熱心に受講する各青壮年部長や事務局



Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

静岡県は温暖な気候と多様な地形に恵まれ、年間を通じて多くの作物が生産されています。さらに、都市型、中山間、大規模・小規模など経営形態も多様で、様々な生産者と活発な意見交換ができています。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

静岡県では多品目の農産物が栽培されています。このことから、ワサビの収穫体験や闘茶（利き茶）、ほかにも大人も参加できるような野菜の収穫体験など、地域ごとに特色ある食農教育が展開されています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

現在、中期計画である3か年計画の実践に向けて活動を展開していますが、活動の成果は出ていますか？活動を通じて多くの盟友と交流を深め、盟友一丸となり、静岡県の農業をさらに盛り上げてください。



活動のPR動画撮影のため集まった盟友



JAハイナゲが展開する、楽しみながら学ぶ茶育「TEA HERO 選手権」

愛知県農協青年組織協議会



設立年

1950年

組織数

16組織

盟友数

664人

〳 組織のPRをひと言 〳

「食」と「農」の未来をつくる！

愛知県農協青年組織協議会では、ポリシーブックにおいて「食農教育活動」と「農政活動」を2本の柱に掲げ、各組織で活動に取り組んでいます。食農教育活動では、農業への理解促進を図るため、小学校や幼稚園・保育園への出前授業、農産物の収穫体験などを行っています。農政活動では、地元議員や行政職員との意見交換を行い、持続可能な農業経営の実現のために農業施策に関する要望などを伝えています。



ています。

各組織で行われている
食農教育の風景

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

子ども農家の八百屋さん

食農教育活動の取り組みとして「子ども農家の八百屋さん」を実施しています。この企画は、小学生から高校生までの子どもと保護者を対象に播種・定植から管理作業、収穫を体験し、最後は「あいちの農林水産フェア」での販売を通じて、参加者に農業の楽しさ・魅力を伝えるだけでなく、農産物の適正価格についても考えてもらうことを目的に実施しました。参加者からは「貴重な体験ができた」とたいへん好評でした。



参加者の子どもと楽しく定植作業

Q & A

Q1 自分たちの組織のあるあるエピソードは？

会議で熱く語り合ううちに関係ない話へ脱線しがちです。ただ、そこから名案が生まれ、のちにすばらしい事業ができあがります！代償として予定終了時刻を超過し、その後の打ち上げでも話は尽きず、毎回終電です。



信頼できる青年部の
仲間たちとの集合写真

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

J A西三河青年部では、栽培したトウモロコシを使ったポップコーンを農業まつりで販売し、その売上で生活環境が整っていないカンボジアの村へ井戸を寄贈しました。村長からの手紙には、きれいな水が使える喜びと感謝



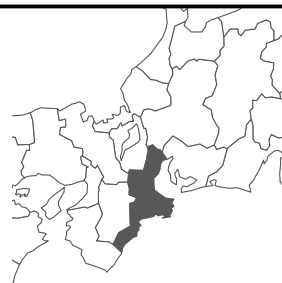
の言葉がありました。

カンボジアへ
寄贈した井戸

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

各組織、県、全国には農業にたいして真面目に本気で取り組んでいる仲間がたくさんいます。そのような盟友と交流することで、自身の農業をよりよくするための知見、ヒントを得るチャンスをつかんでほしいと思います。

JA三重青年部



設立年

1994年

組織数

1組織

盟友数

46人

〳 組織のPRをひと言 〳

時代に合わせ、 柔軟に変わろうとする姿勢

2024年度に県下7JAのうち加入組織が1単組のみとなりましたが、10年後の農業を担うのはわれら若手世代。小さい組織だからこそ、小回りを利かせ、時代にあった新しい青年部のかたちに変えていきたい。個人会員制度の創設は、そのなかでも特徴的なシステムです。やる気のある若手には組織の垣根を越



JA全国青年大会に出席したときの集合写真

えて、どんどん入ってきてもらい、全国視野で活躍してもらおう。活動内容もその時々で求められる内容にどんどんとリバイスしていく姿勢です。

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

市民夏のにぎわいフェスタへの出店

青年部員の生産した果実をたっぷり使用した、かき氷を販売しました。JAの直売所キッチンのシェフ協力のもと、イチゴをたっぷり使ったシロップをつくり、こぼれ落ちるほど贅沢に盛りつけ。天候にも恵まれ、真夏の暑い日ざしのなか、飛ぶように売れ、あっという間に完売となりました。今年ほかの果実でもつくり、ラインナップを広げたいと考えています。



イチゴの果肉たっぷりの
かき氷をほおぼる来場者

Q & A

Q1 自分たちの組織のあるあるエピソードは？

懇親会ともなれば多数の盟友が集い、農業の未来について熱く語り合い、有意義な意見交換ができます。しかし、盛り上がりすぎてついお酒の量も多くなり、翌日には記憶が断片的なこともしばしば。お酒はほどほどに！



懇親会後はリラックスして自然と笑顔に

Q2 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

明るく笑いの絶えない組織ですが、ポリシーブック検討会のときは、真剣なまなざしで話し合いができました。個々が感じている悩みをオープンにし、共感し、解決策をみんなで考えることで結束力の高まりを感じました。



ポリシーブック作成時にはみんな真剣

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

1人ではできないことも、力を合わせればできることもある。多くの仲間をつくり、困ったときには助け合う。恩を受けたら、恩を送り、未来へつなぐ。そんな組織であってほしいと自戒を込めてメッセージを贈ります。

滋賀県農協青壮年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1953 年	4 組織	77 人

HP



〓 組織のPRをひと言 〓

全力農業!!

～僕らがつなげる農の輝く未来を～

滋賀県農協青壮年部協議会は、次世代を担う若手農業者の交流と育成を目的に、地域農業の発展に貢献しています。経営技術の向上や情報共有を通じて、持続可能な農業の実現を目指し、地域の活性化に積極的に取り組んでいます。若手農業者同士のネットワークづくりや、地域との連携を深め、未来の

農業を支える力強い組織です。



熱い想いを持った
役員たち

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

共に考え、共に進む。

滋賀の農を背負う仲間たち

滋賀県農協青壮年組織協議会学習会・盟友交流会を開催し、盟友の知識向上と交流を図っています。学習会では、『地上』を使った学習や農業経営、栽培技術だけではなく、農家の資産形成など、農業の発展にはなにが必要かを考え学習しています。また、交流会をととして滋賀県農協青壮年部協議会の魅力を伝えとともに、これからの農業を支える盟友との交流を深めることに努めています。



活発な意見が飛び交う
盟友学習会

Q & A

Q1 ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

年齢・品目・経営など立場は様々ですが、その垣根を乗り越え、交流し共に学びあえることが魅力です。また、滋賀県農業が抱える多くの課題を共有し、その解決に向けて様々な議論を行い、国政の場に伝えられるのも大きな魅力です。



ポリシーブックに基づき
JA全青協一斉
要請活動を実施

Q2 Pick Up! 都道府県下单組の ユニークな活動は？

JAグリーン近江青年部は、農産物にシールを貼って販売し、シールと景品を交換。JAレーク滋賀大津地区青壮年部は、子ども食堂へ農産物を寄付。JAレーク滋賀栗東地区青壮年部は、盟友に苗代などを助成し、黒大豆栽培に挑戦しています。



滋賀県の田園風景
(伊吹山)

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

10年後の盟友へ！変化の時代でも、農業はやっばりかっこいい。食農教育や様々な活動を通じ、「農業」をみんなが憧れる職業に！今こそ地域に「種」をまき、未来の盟友を増やそう。共に地域を守り続けましょう！

京都府農協青壮年組織協議会



設立年	組織数	盟友数
1955年	4組織	468人

Facebook



Instagram



〳 組織のPRをひと言 〳

つながりを大切に 儲かる農業の実践!!

京都府は南北に長く、地域ごとに栽培手法が大きく異なるため、青壮年部でのつながりを基に栽培技術の情報交換だけでなく、困ったときは助け合う仲間がいます。また、地域農業をけん引するリーダーとして活動するだけでなく、農業を魅力ある産業に感じてもらい、1人でも多くの方が就農したいと思えるよ



う、青壮年部員一人ひとりが「儲かる農業」の実践を目指し、日々の営農と青壮年部活動に尽力しています。

青壮年部活動に尽力します!

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

食農教育活動!

日頃農業に触れる機会がない子どもたちに、農業の楽しさだけではなく大変さも体験してほしいと、中間管理作業も体験してもらいました。この取り組みによって、「子どもは農業に関心を持ち、親は農家を応援するべく積極的に府内産農畜産物を購入するようになった」などの意見もいただき、有意義な取り組みとなりました! 今後は、農業が職業選択のひとつとなるよう、大学生向けにも食農教育活動を実施することになっています。



小学生の親子向けに
農業体験教室を開催

Q & A

Q1 ここが好き! 自分たちの組織の魅力は?

京都府は南北に長いので、同じ作物を栽培していてもそれぞれの地域で独特の栽培工夫がされています。青壮年部のつながりが広がることで、栽培技術に関する知見が深まり、営農の発展につながると考えています。

Q2 多くの活動のなかで印象的だった出来事は?

コロナ禍で青壮年部活動が思うようにできなくなったときに、Webを活用した交流会を行い、実際に会えないなかでも青壮年部員同士の関係性を深めることができました。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは?

青壮年部での出会いは貴重な財産になります。1人ではできないことも、仲間と一緒になればできることはたくさんあります。青壮年部でつながった仲間を大切に、一緒に地域農業を盛り上げていきましょう!



青壮年部で出会った大切な仲間たち



コロナ禍に開催したWeb交流会の様子

大阪府農協青壮年組織協議会



設立年

1956年

組織数

3組織

盟友数

238人

〓 組織のPRをひと言 〓

小さくても強い農業を志そう

当会は青壮年の協同意識を高揚し、同志的団結によって綱領に掲げる諸項目を達成することを目的とする組織です。2024年度は、持続可能な大阪農業に向け、国会議員への提言や、大阪府環境農林水産部幹部職員と意見交換会を実施しました。2025年度も引き続き、都市近郊農業に合った柔軟な環境整備に向け要望活動を展開予定です。また、各盟友が視野を広げて農業経営に役立てるよう、大阪・関西万博2025の視察研修を支援しています。



国会議員に大阪の農業について提言

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

地域貢献活動（こども支援活動）

大阪府農協青壮年組織協議会の構成団体（JAいずみの青壮年会・JA大阪南青壮年部・JA大阪泉州青壮年部）で、児童養護施設「あおぞら（岸和田市）」・「高鷲学園（羽曳野市）」・「三ヶ山学園（貝塚市）」に、青壮年部会員が栽培した野菜などと併せて、『ちゃぐりん』の寄贈を行っています。青壮年組織と児童養護施設との継続的な関係性を構築することで、JAグループのイメージアップなどにつながっています。



地域貢献活動ではたくさんの野菜を準備（JA大阪南地区）

Q & A

Q1 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

2024年度の要請活動として、当時の農林水産副大臣・鈴木憲和議員の事務所と、大阪府選出の松川るい参議院議員を訪ね、提言書を手渡しました。また大阪府環境農林水産部幹部職員との意見交換会も開催しました。



松川参議院議員へ提言書を提出

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JAいずみの青壮年会は管内4市1町で、山手は農地や直売所がありますが、工業地帯である海手でも農を身近に感じてもらえるよう、海手の支店で年金支給日などにマルシェを定期的に開催。そうした活動が評価され第26回JA大阪府大会で表彰されました。



JAいずみの青壮年会が開催しているマルシェの様子

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

いまわれわれの農業は大転換期を迎えています。古きよき伝統を守りつつ現代に必要とされる農業を創造していますか？自身や盟友が農業を志していることが誇りだと胸を張って言えますか？ときに農作業がつかなくても、楽しい農業を創造しましょう。

兵庫県農協青壮年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1957 年	4 組織	107 人

YouTube



〳 組織のPRをひと言 〳

熱い仲間たちと考える 農業のミライ！

地域の枠を超えて仲間づくりができる交流会をはじめ、勉強会、視察研修、懇親会、政策提案、国会議員への要請など精力的に活動しています。その一つひとつに込めているのは、「自分の農業経営をよりよくしたい!」という向上心と、「兵庫県全体として農業をもっと盛り上げたい!」という真剣な思いです!



J A 青壮年部交流会では5人が「J A 青年の主張」を発表

兵庫県農協青壮年部協議会も2年後にちょうど70周年! 今後も県内農業者にとって価値のある組織であるために、これからも行動していきます!

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

特色ある農業を学ぶ! 視察研修会!

盟友の農業経営やJ Aの営農経済事業の取り組みを学ぶため、盟友の圃場やJ Aの共同利用施設にて、視察研修を行っています。2024年度は盟友の黒枝豆の圃場とつり下げ式イチゴハウス、J Aの黒枝豆の集出荷施設と育苗施設など計3回視察研修を実施しました。視察を通じて、盟友の農業経営にたいする考え方やJ Aの特徴的な取り組みについて学びました。



J A 育苗施設での視察研修会を実施

Q & A

Q1 ここが好き! 自分たちの組織の魅力は?

経営内容が違う県内の様々な農家が集まり、自身の地域のみならず、県の農業をどのようにしていくのか真剣に話し協議しています。魅力はやはり盟友同士が意見を出し合える環境がある! ということです。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は?

J A たじま青壮年部では、盟友内でのリモコン式草刈機のシェアリング事業を行い省力化、低コスト化を実現しています。また、今年度よりシェアリングのみならず、オペレーターとして地域活動への貢献も進めていく予定です。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは?

日々の営農では苦労もあると思いますが、そんなときに心の支えになる仲間づくりができるのが青年部活動です! 今よりもっと楽しみながら、自分たちにはかできない農業を目指して、共にチャレンジし続けていきましょう!



国会議員へ要請を実施。地元だけでなく県全体の農業にかかる課題について議論



リモコン式草刈機のシェアリング事業をPR

JAならけん青壮年部



設立年	組織数	盟友数
2000年	1組織	202人

Facebook



〳 組織のPRをひと言 〳

一致団結！

これがわれわれのモットー！

わたしたちは「一致団結」をモットーに、日々、食農教育の実施や地域イベントへの参加、部員の悩みや疑問解消のための勉強会、地域課題の解決に向けた協議、各関係機関との意見交換会や要請活動の実施と多岐にわたる活動をしています。ときには厳しく、多くはみんなで楽しく和気あいあいと！そんな青壮年部は、自分たちを、地元の農業を、真剣に思い活動する情熱あふれる仲間の集まりです!!



JAならけん青壮年部
発足20周年記念イベントにて農業マッチングミーティングを開催

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

JAならけん新規採用職員の農業体験の受け入れ

JA新規採用職員を各盟友の圃場へ受け入れ、農業体験を実施しています。農業に触れたことのない職員も増えるなか、短い期間ですが、体験を通じてコミュニケーション力を培ってもらい農業の魅力や仕事の重要さなどを共有することを目的としています。この経験を業務に活かしてもらいたいという思いとともに、青壮年部が営農経済部門などJA事業運営への反



映を期待し、参画する取り組みでもあるため、今後も継続していきたいです。

農業体験研修を受ける
JAならけん新規採用職員

Q & A

Q1 ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

JAならけん青壮年部は、人とのつながりを大切にできる！自分のことは後回しにしても、仲間やほかの人のために行動できる部員が育っていることが魅力です。部員は組織のために、組織は部員のために！



イベントにも
積極的に参加

Q2 Pick Up! 都道府県下組織の ユニークな活動は？

JAならけん青壮年部五條・吉野支部は、管内の五條市立西吉野農業高等学校と連携し、地元特産品である柿の圃場づくりを同校にて実施。土壌改良から植樹を生徒たちと取り組



みました。現在は営農指導を行いながら管理を続けています。

地元の高校と連携し、
柿の圃場づくりに挑戦

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

農業、青壮年部活動を楽しんでいますか!? 自分は楽しんでるで! 10年後もそう言える自分になれるようがんばります!! 10年もたてば、農業もかなり変わっているでしょう! その変化を楽しみながら共に暴れてやりましょう!!

JAわかやま青年部



設立年	組織数	盟友数
2025 年	1 組織	442 人

HP



〳 組織のPRをひと言 〳

新体制組織としての魂^{ソウル}

和歌山県として青年部組織の歴史は50年になります。今年、和歌山県では県一合併をきっかけに新たに「JAわかやま青年部」が設立されました。これをきっかけに、和歌山県の青年部盟友がよりいっそう密接に連携を取り合い、勢力拡大に取り組み、各地域での取り組みを県全体としての動きにしていきたいと考えています。新体制として50年の歴史に恥じな



「JAわかやま青年部」設立総代会で三役が集合

いよう魂^{こんき}気を入れた「魂^{こんしん}心」の活動を盟友、事務局共に一致団結して行っていきます。

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

新採用JA職員にたいする研修

和歌山県にはJA和歌山学園が存在し、新人研修、中堅研修などの研修会が行われます。そこは宿泊設備も整っており現在では一週間程度の合宿制で研修が行われています。その講義の中に、JAわかやま青年部部長の授業も盛り込まれており、2025年は6月20日、6月27日に行われました。講義内容は、生産部会や直売所の必要性、生産や販売方法に関する工夫など盛りだくさん。質疑応答も交えた形で活気のある授業となりました。



新採用職員にたいして行われる研修の様子

Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

設立間もない組織だからこそ、だれでも平等に発言することができます。ユーモアあふれる意見や考えがつねに飛び交うため、研修会や会議の場はいつも活気に満ちあふれていて発言しやすい環境であることが魅力です。

Q2 自分たちの組織のあるあるエピソードは？

発言権が平等で、ユーモアあふれる意見が多いことが魅力ですが、それゆえに迷いが生じた場合にまとめる時間が少々かかってしまう場合も。ただ、事務局と連携しながら意見交換し、青年部活動の活性化につながっています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

地域を守り、支え、食を守る誇りを胸にこれからも先頭を走ってほしい。農業には若い力が希望となる。共に日本の未来を切り拓いていきましょう。



「JAわかやま青年大会」で受賞した盟友を囲んで



設立総代会で気持ちを新たにする盟友たち

鳥取県農協青壮年連盟



設立年	組織数	盟友数
1954年	3組織	284人

HP



〓 組織のPRをひと言 〓

未来はここから始まる

われわれはこれまでも、様々な問題にたいし共に考え、共に学び、共に行動してきました。そして地域、JA、行政、さらには次世代へ思いをつないでいく必要があります。創立から70年を迎え、偉大なる先輩がたからのバトンを受けて、これからの未来をどう描くか。未来永劫、県内農業・地域が発展するために、一丸となって元気いっぱい営農・青年部活動に取り組み続けます。



県青連・前田佳寛委員長の座右の銘は「地域の農業をもう一度デザインする」

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

経営者・地域リーダーとして！

「農業経営者・組織リーダー研修会」を企画。マナーやアンガーマネジメント、税対応（インボイス）といった経営者としてのスキル取得はもちろん、地域計画への参画といった担い手として必要な対応、さらには事業承継を現在、将来とどう考えていくかなど、その時々盟友の要望に応じてテーマを設定。青壮年部に未加入の農家にも参加を働きかけ仲間づくりにもつなげています。



事業承継について盟友たちで考える研修会を実施

Q & A

Q1 自分たちの組織のあるあるエピソードは？

熱い思いを表に見せない盟友が多いです。挨拶は嫌いだと言いながら、青年の主張のように熱い挨拶をする盟友やスポーツ大会になると急に燃えだす盟友など、シャイな盟友ばかりです。



青年の主張のような熱い挨拶をする盟友

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JA鳥取西部青壮年部は、地元の小学校を対象に「食育」に「販売」を加えた農育活動を行っています。作って終わりではなく、調製、包装、販売までを体験し、農業へのいっそうの理解を図っています。



JA全国青年大会において、組織活動としての農育の取り組みを発表

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

健康で、笑顔で明るく楽しく元気よく農業していますか？農業は愚直に健全経営するだけでなく、生産の革新、地域農業の再デザインも考えなければ衰退します。まわりのみんなが農業で儲けて、がっちり!!を目指しましょう。

島根県農協青年組織協議会



設立年	組織数	盟友数
1955年	10組織	632人



〳 組織のPRをひと言 〳

農から広げる楽しいしまね

先輩たちが築き上げてきた島根の豊かな農業と笑顔あふれる地域社会を次世代へとつなぐ責任を胸に、日々活動しています。盟友同士の交流会はもちろん、農林大学校への講義やJAや行政との意見交換会、議員への要請、食農教育や地域イベントでの出店など様々な活動に取り組んでいます。「挑戦する心」を



中国・四国地区JA青年大会懇親会時の集合写真

忘れず、『行動こそ、未来を創る原動力』として、仲間と一緒に島根の農業を築いていきます。

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

地元学生へ活動参加の呼びかけ

毎年、島根県JA青年大会を開催し、中国・四国ブロック青年大会での発表者を選出しています。農業者や盟友が減少していくなか、地元学生に少しでも農業に関心を持ってもらいたいこともあり、2024年度の発表大会から参加を呼びかけています。島根大学や農林大学校の生徒に参加してもらい、盟友の熱い主張や組織活動を聞いてもらいました。また、学生からも農業に関する研究発表を行ってもらっています。

島根県JA青年大会で発表する島根県立農林大学校の生徒



Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

青年組織がないJAしまね隠岐どうぜん地区本部に訪問し、若手農業者やJA職員と交流を行い、青年大会やマルシェへの参加を呼びかけています。盟友以外にも外部団体や地元学生と輪を築こうとする姿勢が自慢です。

Q2 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

2015年度、60周年記念事業として大運動会を開催しました。日頃は田んぼや畑で汗を流す盟友が、体育館で元気いっぱい競技に挑む姿がたいへん印象的でした。70周年記念事業では盛大なマルシェを開催予定です。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

10年前、農業は「大変な仕事」と語られていました。いま、盟友で築いてきた農業は人気の職業になっていますか？この先も平坦な道ではないでしょうが、変化を恐れず挑戦を続け、たくましい農業の姿を見せ続けてください。

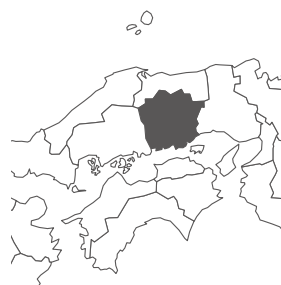


隠岐どうぜん地区に訪問した盟友の集合写真



60周年記念事業で開催した大運動会、選手宣誓の様子

JA岡山県青壮年部協議会



設立年

1982年

組織数

3組織

盟友数

291人

〓 組織のPRをひと言 〓

地域農業への情熱よ、永遠たれ!!

盟友自身の農業経営にかける情熱はもちろん、農業・地域を盛り上げるため、青壮年部活動にも情熱を燃やしています。JA岡山県青壮年部協議会では、テーマを設定した研修会を年1〜2回開催、終了後は懇親会での意見交換でアルコールを燃料に情熱を燃やしています。また、中央会や県幹部との意見交換会では、日頃の思いをぶつけ、闘志を燃やしています。これからも、活動を通じて、農業への情熱を広く伝え続けます。



県青協研修会の様子

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

われらが愛歌『君と』を盟友みんなで合唱♪

全国の青壮年部盟友のだれもが知っている、われらが愛歌『君と』。毎年開催される県青協総会や県JA青年の主張大会の最後に、出席者全員で声を張り上げ歌っています。学校の行事では校歌、青壮年部の行事では『君と』を歌う。やはり、歌うことで、そこに自分が存在していることを確認できます。県青協は、自分の居場所のひとつであり、盟友みんなの居場所のひとつでもあります。



『君と』をみんなで合唱

Q & A

Q1 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

2018年に起きた「西日本豪雨」で、盟友の圃場が被災しました。そのさいにほかの青壮年部盟友が重機を持ち寄り、堆積物の除去などの大規模作業を行い、みんなで復旧作業に取り組みました。改めて「結束力」の偉大さを実感しました。



盟友の圃場の復旧に向けて部員らが団結

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

地元小学生などを対象とした食育活動です。地域に果樹や米麦、野菜の産地があるので、学年ごとに品目を変えて年間を通じた農作業を体験してもらうことで、農業やものづくりのおもしろさを伝えています。



小学生に農作業を教える盟友

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

われわれがいま、JAと一緒にまいた農業や農業者、地域への希望の種子は、うまく芽を出して順調に成長していますか？青壮年部盟友が主役となる農業は、これまでもこれからも、国の基たれ。

広島県農業協同組合青壮年連盟

設立年	組織数	盟友数
1949 年	10 組織	543 人

Instagram



〳 組織のPRをひと言 〳

強くて豊かな広島県農業のために！

広島県は北の中国山地、南の瀬戸内海の間に位置しており、多彩な気候や様々な農産物、多様な地域・文化に恵まれています。これらの特徴を活かし、組織の活性化に力を入れて盟友や組織の結束力を日々高めています。県内の農産物や農青連組織のPRを行うためにフードイベントや子育て世代向けのイベントに出展しています。また、未来の生産者育成や持



中国・四国地区JA青年大会に出場する盟友たち

続可能な農業のために学校教育との連携にも取り組んでいます。

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

地元企業との新たなチャレンジ！

地元企業と連携して県内の農産物をふんだんに使ったカレーパンを開発しました。毎年秋に行われる「ひろしまフードフェスティバル」に出展し、その場で揚げたアツアツのカレーパンを販売。評判が評判を呼び、1個500円のカレーパンが2日間で450個完売しました。地元企業とのタッグは今年が3年目。米粉を使った新たな商品の開発も進めているので、ぜひ広島県にお越しください。

地元企業と開発したカレーパンを
フードイベントで販売



Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

「自分たちのやりたいことを、自分たちで考えてやる」。当たり前のことですが、自由に活動できる環境や文化が根づいています。会議や意見交換会の場で発言を促し、盟友と事務局が一体となって取り組んでいます。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JAひろしま青壮年連盟庄原地区本部が婚活イベントを実施。農業や食に興味のある女性に出会いの場を提供し、一緒に農業経営を行うパートナーや次世代の農業後継者確保を目指した取り組みです。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

新しい仲間、大切な仲間は身近にいますか。お互いに支え合い、助け合いながら日々の活動に取り組んでください。人と人とのつながりが強くなれば組織が強くなります。そして広島県農業をさらに強くしていきましょう！



島根県のブドウ農家へ視察研修



JAひろしま庄原地区本部で開催した婚活イベント。2024年度は2組のカップルが誕生

山口県農協青壮年部



設立年	組織数	盟友数
1952年	1組織	325人

Instagram



〓 組織のPRをひと言 〓

世代や組織を超えた仲間づくり

山口県農協青壮年部は20～50代と幅広い年代が活躍しており、年齢差を感じさせない仲間づくりができるのが魅力です。県域で開催する勉強会では、市場関係者を講師に招き、品目別に分かれてグループワークをします。栽培技術の共有や販路開拓などを語り合い、研鑽に励んでいます。また、県選出の与党国会議員への要請活動やJA役員との意見交換会、若手法人就業者サークル百姓錬磨の会、山口県農村青少年クラブ連絡協議会、山口県立農業高等学校との交流も活発に行っています。



世代や組織を超えて、品目別に分かれグループワークを実施

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

婚活イベントで 8組のカップルが成立！

2016年から独身の若手農業者へ出会いの場を提供することを目的に、婚活イベントを開催。InstagramやLINE広告を使って告知し、昨年は県内各地より男性19人、女性15人が参加。ケーキバイキングやテーブルゲームなどを楽しみました。盟友の実行委員が一丸となり、歴代最高の8組のカップルが成立しました。



婚活イベントにて。
昨年は8組のカップルが成立

Q & A

Q1 多くの活動のなかで 印象的だった出来事は？

台風で甚大な被害にあった盟友の農業施設をJA山口県防府とくど青壮年部が一丸となって復旧作業を行いました。被害にあった盟友は「これからも青壮年部の輪を大切に、同じ境遇の盟友がいたら、こんどはかならず手を差し伸べたい」と語りました。



台風で倒壊したハウスの解体作業を手伝う盟友ら

Q2 Pick Up! 都道府県下組織の ユニークな活動は？

JA山口県宇部青壮年部のテーマ「自身の身体と健康について学ぶ」を実践するため、ピラティス研修に挑戦しました。参加者からは「体を整えられたこともうれしいですが、盟友同士の一体感も生まれ、気分もリフレッシュできた」と大好評でした。



ピラティスに挑戦するJA山口県宇部青壮年部の盟友たち

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

青年組織が食と農の担い手であるという誇りは10年たっても変わらないと信じています。10年後、実りある営農を続け地域を支えることにすばらしい希望を持てられるよう、一緒にがんばりましょう。

徳島県農協青壮年組織協議会



設立年

1953 年

組織数

5 組織

盟友数

613 人

〳 組織のPRをひと言 〳

老若男女、 力の限り突き進めパワー！

徳島県農協青壮年組織協議会では、農村青年の農業意識を高め、農業者の所得向上や農業をよりどころとした豊かな地域社会を築くことを目的に、県選出国會議員への要請活動や食農教育、直接物販など様々な活動に取り組んでいます。労働力不足や耕作放棄地といった農業を取り巻く諸問題が深刻化していますが、農業者が元気に生産を続けられるよう全



国の盟友と共に連携し、日々楽しく、ときには熱く活動しております。

県知事を訪問し
要請活動を実施

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

全世代参加型の食農教育

2025年6月に徳島市で開催された「第20回食育推進全国大会」にて「いつも食べているお米は何g？お米の重さ当て体験」と題して、食農教育のブースを出展。1合（150g）の計測を目指し、子どもから高齢者まで約550人がブースを来訪。挑戦者にはバケツ稲セットを配布し、活動をPRしました。また、2024年11月初旬に徳島駅前で開催された「狸まつり」では菌床シイタケの販売・説明を行い、みずから作物を栽培し食べることを説く食育活動を行いました。



食育推進全国大会での
県青協ブースの様子

Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

県青協役員の大部分が県青協の会長経験者であり、問題があっても解決につながる意見を得られることです。ポリシーブック作成時には、課題やその解決策など次代につなげられるよう熱い議論を交わしています。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

J A徳島県あわ市支部青壮年部では、食育活動として地域の小学校で小麦の栽培・刈り取りを行い、ピザにして食べる活動を行いました。小麦を粉にする過程で大きな石臼を使用しての粉ひき体験も行いました。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

次代の盟友諸君に「農畜産業は楽しくおもしろい仕事」と思えるような技術と情熱を伝え、さらに次世代に引き継いでもらう……10年後、共に笑顔で笑っていられるようにいま、力の限りがんばります。



中国・四国地区J A青年大会での
ひとコマ



古い農家所有の石臼で
粉ひき体験をする小学生

JA香川県青壮年部

設立年

2000年

組織数

1組織

盟友数

627人



〳 組織のPRをひと言 〳

日本一小さい県の大きい青壮年部

JA香川県青壮年部は14支部で構成しており、各支部の農業者の意見を集めて、JAや行政との意見交換や要望を出しています。一人ひとりではできないことも、集まれば現状を変えていく力になります。活動内容も、JAまつりなどイベントへの参加や、スポーツ交流大会、地域の農家の防除や草刈り作業の受託など様々です。食農活動もしており、各支部が地元の小学校での農業体験を実施しています。



小学生向けに田植えの農業体験を開催

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

恋する旬彩グルメ婚2024

県下の独身盟友の婚活を応援する企画です。県内および一部近県の女性に、農家が相手と周知したうえSNSなどで参加を募集します。また、参加盟友が持参する農作物を使った料理を食べながら会食するのも魅力です。3回の開催実績があり、これまで7組のカップリングに成功しました。さらに内1組は結婚にまで至っているイチ押しの活動です。



婚活イベントで新鮮野菜を使った料理を提供

Q & A

Q1 ここが好き！ 自分たちの組織の魅力は？

ボウリング大会・ゴルフ大会など、総勢98人の盟友が参加するイベントを実施。スポーツを通じて、支部間の結束が高まるとともに、県域での交流が促進されます。結果的に県域農業においても好循環が生まれていることが魅力です。



盟友たちが参加したボウリング大会

Q2 Pick Up! 都道府県下組織のユニークな活動は？

JA香川県豊南支部の活動。若手盟友の活動参加を促すために3年前からeスポーツの大会を実施しています。eスポーツを通じて新しい交流が生まれ開催運営についても若手中心に実施しました。



eスポーツ大会を通じて盟友同士、楽しく交流しています

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

熱く生きていますか？ われわれも先輩から受け継いだバトンを必死で守ろうとしています。課題は時代によって違うかもしれませんが、「農業をつなぐ」ということは同じだと思います。笑って農業バトンを渡せるようがんばるので、10年後はよろしくお願いします。

愛媛県農協青壮年連盟



設立年	組織数	盟友数
1957 年	10 組織	1786 人



〳 組織のPRをひと言 〳

えひめ農業、若い力で！

20代を中心とした幅広い年代の盟友が、柑橘・小麦・野菜・畜産など、多様な品目を生産し、愛媛農業の未来を担っています！また、地域農業の振興と組織の発展を目指し、食農教育や消費者との交流活動を通じて、安全・安心な食料の供給や環境保全型農業の推進に努めています。さらには、現場の声を行政に届けるべく、議員要請や各種政策提言にも積極的に取り組んでいます。

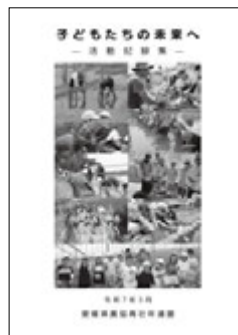


地域農業の振興と組織の発展を目指し共に歩む盟友

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

子どもたちへ伝える食農教育！

1999年度から、「子どもたちの未来へ」のスローガンのもと、県内各地域の青壮年部が児童らを対象とした田植え・稲刈り・柑橘収穫体験などといった食農教育活動を実施しています。2024年度には25地区で2000人を超える子どもたちが参加しました。本活動は、農業の重要性や食の大切さを学ぶ機会になっているほか、地域住民・保護者・学校との連携のもと、子どもたちの健やかな成長を支える取り組みとして定着しています。



食農教育活動を紹介する冊子

Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

世代や地域を超えてつながる“人のあたたかさ”です！年齢や地域が違って、すぐ打ち解けられる雰囲気があります！ふだん出会えない地域の盟友ともつながりができ、情報交換や悩み相談まで幅広い交流が生まれています。

Q2 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

中央会の常勤役員、JA全農えひめ、愛媛県との意見交換会では、現場の声を届ける有意義な対話ができています。懇親会にも多くの人が参加し、立場を超えて深い話し合いができる貴重な機会となっています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

青壮年部での活動は、地域や農業のためだけでなく、自分自身の成長や仲間とのきずなにもつながる大切な時間です。10年後も仲間とのつながりを大切に、だれもが参加したくなる魅力ある組織を切り拓いていきましょう。



地域イベントで餅つきをする盟友たち



意見交換会の様子

高知県農協青壮年連盟

設立年

1954年

組織数

3組織

盟友数

1213人

Instagram



〳 組織のPRをひと言 〳

高知県の青壮年部も 新たな変革を！

令和に入り、盟友の世代だけでなく、農業も新しく変わっています。高知県農協青壮年連盟は、盟友同士が日頃の課題を共有し、その解決に向けた発信をし続けています。県や国への政策提言、食農教育や婚活事業などの新たな活動にもコロナ明けから取り組んでいます。各地区同士の交流も盛んで、横のつながりが深い組織です。情勢や農業課題など様々なものが変化していますが、高知県農協青壮年連盟もポリシーブックを基に大きく変革していきます！



多数の盟友が集まって活動方針を協議

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

農業男子と婚活イベント

新たな県域の企画として、高知県の高齢化や担い手不足の課題に取り組むため、20代、30代の盟友を中心とした婚活イベントを開催しています。イベント当日、参加した盟友は最初は緊張していましたが、時間が進むにつれ笑顔も増え、最後には盟友がとれたての野菜を参加女性にプレゼントするひと幕も。よい



出会いのきっかけづくりの場となりました。

婚活イベントで共に料理する参加者

Q & A

Q1 自分たちの組織の あるあるエピソードは？

高知県民はお酒が大好き！「おきやく」という宴席文化があり、会議よりも懇親会の場のほうが盛ります。農業技術や青壮年部活動への熱い思いなどが飛び出し、「それを会議の場で言ってよ!!」と思うことが多々あります(笑)。



懇親会での
集合写真

Q2 多くの活動のなかで 印象的だった出来事は？

県域でのスポーツ大会。40年以上続いた駅伝大会の開催が、地域の高齢化や盟友の減少により困難に。しかし、当時の役員で話し合い、スポーツ大会として新たな形にすることで、組織活動を維持できました！



スポーツ大会で
ボウリングをした
ときのひとコマ

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

栽培技術の向上や農業機器の進化に伴い、これからは世代交代をした若い盟友が中心になっていきます。しかし、食の文化は不変です。日本の食を支えている農業に誇りを持ち、向上心を高め共にがんばりましょう！

福岡県農協青年部協議会



設立年
1955 年

組織数
18 組織

盟友数
1376 人



〳 組織のPRをひと言 〳

おかげさまで、設立70周年

わが県では様々な活動を行っています。「アグリネクストFUKUOKA」という勉強会では、様々な分野から講師の先生を呼び講演を開催、その後、グループディスカッションで意見を出し合います。盟友の仕事にた



いする意識向上につながる行事です。ほかに、スポーツ観戦を通じた家族交流会、意見交換、農業担い手海外セミナーなどの活動を行っています。

県青協設立70周年記念ポスター（久留米地区）

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

「食と農の日」記念イベント

このイベントは県内3地区で行われるもので、消費者との意見交換の場になっています。とくに久留米地区においては、「食料・農業・農村基本法」の施行された7月16日に「にぎりめしの集い」と称して、久留米地区盟友と小・中学校の校長先生やPTA会長・役員、一般消費者とおにぎりを食べながら生産者と消費者という立場で、お互いの理解を深めるための意見交換会をしています。

「にぎりめしの集い」には福岡県産米キャラクター「めし丸くん」（写真左）なども登場



Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

年齢や経歴にとらわれず、意見を出し合い、みんなが同じ方向に向かっていきます。一人ひとりが自分の考えをきちんと発言できるからこそ、新事業を立ち上げるときも躊躇することなく開始できています。

Q2 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

関係団体との意見交換会において要請書を作成していることです。各組織より要望を出してもらうと、それぞれの要望内容が違い取りまとめは大変ですが、地区によって様々な要望があることがわかり勉強になります。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

県内の活動は、その年その年の県青協役員の提案により開始され、継続的に行われています。なかなか盟友の理解を得られない活動もありますが、信念を持ち継続的に行うことで、かならず強い組織になります。



70周年を記念したロゴマーク



小倉地区（上）と福岡地区（下）の盟友

佐賀県農協青年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1956年	9組織	1492人

〓 組織のPRをひと言 〓

仲間と紡ぐ未来

2025年度、70周年を迎える佐賀県農協青年部協議会は、「仲間と紡ぐ未来」をテーマに、一人ひとりの力を結集し、協力しながら、仲間（盟友）と共に佐賀県農業の未来を築くため、様々な取り組みに挑戦

します。盟友全員で共通のビジョンを持ち、共に挑戦し信頼を高めながら、青年部としての力を強化していきたいです。



県青協設立60周年記念ポスター

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

稲わら・麦わらの有効活用をPR！

青年部では、資源循環型農業を实践するため、稲や麦刈りのあとに発生する「わら」の有効活用を呼びかけています。青年部盟友による手作り看板を作製し、JA施設などに設置して、農業者の取り組み促進と県民の理解醸成を図る活動をしています。さらに、



新聞などでもわらの焼却防止を呼びかけ、人と環境にやさしい営農活動を目指しています。

手作り看板でわらの有効活用をPR

Q & A

Q1 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

JA伊万里青年部は、コロナ禍に地域住民に少しでも元気を届けたいとの思いで打ち上げ花火プロジェクトを企画。12月の夜空に約400発の花火を打ち上げました。様々な活動



が難しいなか、盟友同士協力し成功したことで結束力が深まりました。

JA伊万里青年部の打ち上げ花火プロジェクトのチラシ

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JAさが白石地区青年部では、「青年部一支部一研究事業」に取り組んでおり、支部ごとに水稲や大豆、イチゴなどの様々な試験栽培に取り組んでいます。3月上旬には発表会を開催し、取り組んだ研究成果を発表して、盟



友たちと情報共有を行っています。

青年部一支部一研究事業で成果発表する盟友

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

農業者の減少や生産コストの高騰、多発する自然災害など、農業情勢が厳しいなか、盟友と協力し課題解決に向け日々奮闘しています。10年先も青年部の誇りを胸に盟友とのきずなを大切に、共に協力し支え合いましょう！

長崎県農協青年部協議会



設立年	組織数	盟友数
1955 年	7 組織	968 人

Instagram



〳 組織のPRをひと言 〳

多様な視点から農業を見つめる組織

県内は離島・半島地域や中山間地域が多いため、傾斜地や段々畑を巧みに利用するなどの工夫が生まれ、気候や土壌に適した作物が高いレベルで栽培されています。また兼業農家も多く在籍し、農業とほかの仕事との両立を図りながら積極的に活動している地域もあります。そのようななかでも、子どもたちに



JA長崎県青年大会時の集合写真

食の大切さや農業の楽しさを教える「食育」に力を入れ、小学生向けに農業体験活動を実施しています。

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

長崎県JA青年部 親睦ボウリング大会

約50年続いたソフトボール大会について、盟友数減少やコロナ禍などの要因から2024年度より競技種目の見直しを行いました。運動が苦手な盟友や女性の盟友でも楽しめる競技を役員で考え、ボウリング大会を実施することに。ボウリング大会では天候を気にすることなく開催ができ、2～3時間程度で大会を終えることができるため、離島からの参加者の負担軽減にもつながりました。



ボウリング大会の様子

Q & A

Q1 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

2025年度長崎県農協青年部協議会は創立70周年を迎えました。これまで青年部を支えた歴代委員長から現役の青年部員にメッセージをいただき、青年部の活性化に向けて再認識を行いました。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JA島原雲仙青年部小浜支部ではヒマワリ畑を使った迷路を毎年製作。迷路は勇者が迷宮で魔物と戦うゲームをイメージ。SNS投稿者には抽選で特産のジャガイモをプレゼントするなど、農産物のPRにもつなげています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

長崎県は地理的条件が不利な地域があり、農業を取り巻く環境はひじょうに厳しいですが多くの困難を乗り越えてきました。80年、100年と青年部のバトンをつないでいけるように盟友とがんばっていきます！



70周年記念式典にて歴代委員長が集合



ヒマワリ畑を使った迷路「ひまわりクエスト」の様子

熊本県農協青壮年部協議会



設立年

1955年

組織数

13組織

盟友数

2265人

HP



〳 組織のPRをひと言 〳

肥後もっこすパワー全開！

多種多様な農業形態のある熊本県にて、年齢や経験に関係なく様々な意見を言い合えるチームです。経営以外の話も自分事のように相談に乗って、沢山の困難もお互いが支えあっています。今期はSNSにも新たに力を入れ、盟友のみなで熊本をより盛り上げることができるようがんばります！また会議後の懇親会は定例となり、どこの都道府県にも負けないうくらい楽しく、大切な時間を過ごしています！

J A九青協リーダー養成研修会の県青協役員参加者



都道府県組織紹介

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

くまもと農業フェア

熊本県産の農畜産物や加工品を広くPRし、生産者と消費者の交流を深めることを目的としたイベントにて、青壮年部も各地域の農畜産物をPRしています。女性部は熊本県内の食材を使用した豚汁、協議会委員は新米を使用した餅の販売や米すくいなど、多くの方に熊本の農業を知っていただくべくがんばっています。2日間で約2万人の来場者があるイベントを助け合って盛り上げます！



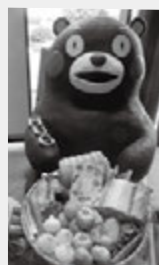
大盛況だった2024年のくまもと農業フェア

Q & A

Q1

自分たちの組織のあるあるエピソードは？

丹精込めて作った農畜産物を交換しあうことです。初めてお会いした方と名刺交換をして、数日するとおいしい作物が自宅に！お互いが



送ることによって、お礼の連絡をした日に相手にも届くこともしばしば(笑)。話だけでなく農畜産物とおして仲がよくなるのも熊本ならではだと思います！

県の農畜産物をPRするくまモン

Q2

Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

J Aあまくさ牛深支部の活動です。毎年4月に行われる「牛深ハイヤ祭り」において、夜の総踊りでは組合員約60人で夜の街を踊り練り歩き、特産でもある天草晩柑を配りPRしています。晩柑を背負い盟友が踊る姿も毎年恒例です！



牛深ハイヤ祭りでの天草晩柑をPR

Q3

10年後の盟友に贈るメッセージは？

10年後と言わず、これからも農業を支える仲間として楽しみましょう！営農にあたり様々な問題や課題が出てくるはずですが、そんなときに支えてくれるのは仲間です。とくに熊本は国内有数の農業県！誇りを持ってがんばろう！

大分県農協青年組織協議会



設立年

1956 年

組織数

3 組織

盟友数

55 人

HP



〳 組織のPRをひと言 〳

若手とベテランの融合！

大分県農協青年組織協議会は盟友数55人、年齢層は30代～70代と幅広く「若手とベテラン」が融合した少数精鋭組織となっています。ポリシーブックを基軸として、「地域社会への貢献」「政策提言」を柱にJAと一体となった活動を展開するとともに、組織としてのレベルアップのため農政活動にかかる学習会やJA役員との意見交換会の開催、県産農畜産物の対外広報活動など、組織強化に努めています。



ポリシーブックを活用したJA役員との意見交換会の様子

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

3種の新米を食べ比べ！ 県産米をPR！

県産農畜産物をPRするため新米の販売などの対外広報活動を毎年実施しています。とくに2024年度は米不足の影響もあり、消費者の関心も高かったことから、県産米3種を使ったおにぎりセットや新米を販売。さらに新米が当たる抽選イベントを実施しました。また、県内の各生産部会と連携し、新米以外の県産農畜産物のPR・販売活動も行いました。



県産農畜産物の対外広報活動

Q & A

Q1 ここが好き！自分たちの組織の魅力は？

盟友数が少ないからこそ、年齢や経験にかかわらず意見を言いやすい雰囲気があります。毎年開催の「県産農畜産物の対外広報活動」や「JA大分県青年大会」には多くの盟友が参加。夜の親睦会も行っています。

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

2024年度までの8年間、県青協委員長を担った名誉委員長ならぬ名物委員長がユニーク！JA祭りや地域イベントなどで県青協の統一ポロシャツ・キャップを着用して青年部活動や県産農畜産物をPRしています。

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

気候変動などによる災害の影響はどうか？毎年、大小かわかわらず各地域で災害が発生していますが、われわれ農家・青年部はそのたびに立ち上がっています!! 10年後の盟友! 災害に負けずに一緒にがんばりましょう!



ビール片手に結束を高める盟友たち



地域の祭りで青年部活動をPRする“名物委員長”

宮崎県農協青年組織協議会



設立年	組織数	盟友数
1958 年	1 組織	1264 人

Facebook



〓 組織のPRをひと言 〓

自然が好き。だから農業が好き。

宮崎県農協青年組織協議会は、おおむね45歳までの盟友1264人で活動しています。県内には13の支部があり、県内都市部から中山間地と多様な地域で構成されています。県農青協では、国会議員などへの要請活動、JAグループ宮崎役職員との対話集会、国内外の農業を学び営農活動に活かすことを目的とした農業研修事業を行っています。そのほかにも、食農教育活動の一環として大学生や小学生向けに実施する農作業体験学習や福祉施設の児童への農畜産物贈呈や交流会などを実施しています。



各支部長と県農青協三役で
宮崎県知事に要請

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

県内100校、 8824人の小学生を巻き込む 「農家のおじちゃんと語る会」

この活動は、本県で実施する食農教育の一環で、各管内の小学校を対象として、稲作（田植え・稲刈り・脱穀）体験や、収穫したお米で餅つきなどを行っています。徐々に、活動範囲が広がり、2024年度は8824人の小学生に参加してもらいました。今後は、女性部と連携し、料理教室などを盛り込むことで食農教育活動をさらに充実させていきたいと考えています。



地域を巻き込み農業を体験する
「農家のおじちゃんと語る会」

Q & A

Q1 多くの活動のなかで 印象的だった出来事は？

毎年年末に福祉施設を訪問して、農畜産物のプレゼントやドッジボールなどの交流をしています。1日間だけですが、様々な交流のなかで児童に「ありがとう」と言われると、元気が出ます。今後もこの活動を続けていく予定です。



毎年福祉施設に各支部から農畜産物を贈呈。交流会も実施

Q2 Pick Up! 都道府県下組織の ユニークな活動は？

地元の大学生（管理栄養士の卵）を対象に、県内各地で農作業体験を行う「食と農をキビリ隊」という活動を年3回実施しています。キビリとは結ぶ意味を指し、地域の農業が様々な形で発展してほしいという思いで実施しています。

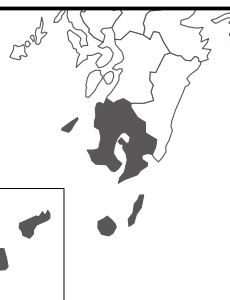


管理栄養士を目指す大学生に
農作業を体験してもらい「食と農をキビリ隊」

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

10年後の盟友のみなさま、青年部活動を楽しんでいるでしょうか。青年部だからこそ得られる、出会いや経験を糧に精いっぱい活動してください！

鹿児島県農協青壮年組織協議会



設立年

1983 年

組織数

13 組織

盟友数

793 人

Facebook



〳 組織のPRをひと言 〳

義理人情に厚い盟友たち

みんなが思いやりを持ち、なにか困っている人がいれば盟友同士で助け合う、温かい組織です。日々の営農活動が忙しいなかでも、県内で行われる青壮年組織のイベントがあれば、時間をつくって多くの盟友たちが駆けつけてくれます。そんな盟友たちの集まりだ



第70回JA全国青年大会での集合写真

からこそ、つねに前向きで、熱い思いのこもった活動を展開できています。義理人情に厚く、ほんとうに頼りになる盟友たちです！

〳 イチ押しの活動を紹介 〳

県議会議員と語る会

県内の農業現場の課題を共有し、意見を交換するために、県議会議員と青壮年組織が語る会を実施しています。この語る会は、県議会議員から農業の実情を学びたいという要望を受け実現しました。ポリシーブックを軸として、組織活動を行っていくうえで、国と県との連携は、必要不可欠なものであり、定期的



県議会議員と語る会

Q & A

Q1 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

住宅街の真ん中にある耕作放棄地で、JAと連携してサツマイモを栽培し、地域の人と一緒に収穫をした経験です。子どもたちにとっては、食農教育のよい機会となり、地域の人に活動を知ってもらうことができました。



耕作放棄地を活用した食農教育活動

Q2 Pick Up! 都道府県下单組のユニークな活動は？

JA鹿児島みらい青年部が地域のイベント広場を貸し切り、農業者の活動を消費者に知ってもらうためイベントを開催しました。販売だけでなく、盟友が生産した農畜産物でBBQを楽しんでもらい大盛況となりました。

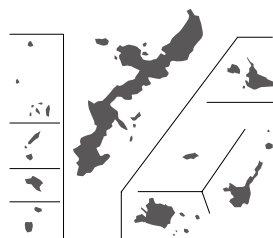


JA鹿児島みらい青年部のイベント
「JA鹿児島みらいサマーフェスタ」

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

青壮年組織の盟友同士で集まって意見を交わす大切さや、アグリスクールなどの食農教育活動、要請活動など、青壮年組織の重要性を、次の世代の農業者へ引き継いでいってもらえたらうれしいです。

JAおきなわ青壮年部



設立年	組織数	盟友数
2002年	1組織	479人

HP



Facebook



Instagram



〓 組織のPRをひと言 〓

南国特有の精神的健康優良組織

沖縄県は多様な島から成り立つ県。大東島から与那国島まで1000kmも離れています。島ごとに様々な土壌があり、青年たちが生き生きと農業を行う県になっています。平年の冬の最低気温は10℃を下回ることはない土地柄で、南国ならではの日差しをたっぷり浴びたサトウキビ、フルーツや野菜たちはもちろん、畜産もひじょうに重要な産業です。そのような環境のもと、われわれ青年組織は未来を見すえ、楽しく農業をしている組織です。



軽トラックで県産農産物をPR

〓 イチ押しの活動を紹介 〓

「FC琉球」との異業種コラボ

昨年より青壮年活動をさらに消費者へPRする取り組みを始めています。J3リーグに所属する県内サッカークラブ「FC琉球OKINAWA」との異業種コラボを行ったほか、昨年発足した女子チーム「FC琉球さ



くら」へ、食を通じて彼女たちを応援する取り組みを実施。男子チームのホーム試合では屋外イベントブースでの直売会や農産物詰め放題イベントを開催しています。

FC琉球サポーターへ農産物を販売する新垣副委員長(当時)

Q & A

Q1 多くの活動のなかで印象的だった出来事は？

「おきなわ花と食のフェスティバル」では、土を使わないパミスサンド栽培で育てたリーフレタスの収穫体験を実施しました。多くの子どもたちがリーフレタスの収穫体験を行い、食の大切さや国産国産、地産地消のPRに成功しました！



土を使わずに育てたリーフレタス収穫体験の様子

Q2 Pick Up! 都道府県下組織のユニークな活動は？

JAおきなわ美里支店青壮年部では、盟友とJA職員が共に小型車両系建設機械(3t未満ショベルカー)の免許を取得し、地域の開墾作業を行いました。これからは耕作放棄地をなくすため、ショベルカーの技術を上げていきます！



ショベル講習の様子

Q3 10年後の盟友に贈るメッセージは？

10年後、同じ場所で農業していますか？JA職員には人事異動がありますが、農家はありません。農家のやることは農作物を作り続けること。10年後、彼らが出世し戻ってきたときには昔話を肴においしいお酒飲みましょう！

J A 青年組織活動実績発表全国大会 最優秀賞(千石興太郎記念賞)受賞組織一覧

—2015(平成27)～2024(令和6)年度—

地域農業の振興およびJA運動への参画に向けた青年組織の活動実績に関する全国6ブロックの代表(組織)による発表全国大会。
1955(昭和30)年頃より「体験発表」として不定期に開催していたが、1969(昭和44)年度全青協創立15周年記念第16回全国農協青年大会より継続して実施。
1973(昭和48)年度第20回全国農協青年大会より最優秀賞として「農林大臣賞」を創設。
1993(平成5)年度第40回全国農協青年大会より「千石興太郎記念賞」に名称変更。

年度	組織	発表題目
2015(平成27)年度	J A糸島青年部(福岡県)	未来への懸け橋
2016(平成28)年度	J Aながさき県中央部地区青年部都支部(長崎県)	今、私達が進むべき道 ～命を育み 心を耕せ～
2017(平成29)年度	J Aとびあ浜松青壮年部(静岡県)	ミッション：江戸時代のホウキを再現せよ
2018(平成30)年度	J A信州うえだ青年部(長野県)	自・盟・農・地
2019(令和元)年度	J A中札内村青年部(北海道)	食育難民
2020(令和2)年度	J A東京むさし国分寺地区青壮年部(東京都)	「美味しい」「新鮮」「安全」「安心」国分寺三百年野菜 こくベジプロジェクト ～地域の方々と、共に学びながら育んでいく「地産地食」～
2021(令和3)年度	J A島原雲仙青年部南串支部(長崎県)	この味を未来へ
2022(令和4)年度	J Aいがふるさと青年部(三重県)	農業から始まる繋がり
2023(令和5)年度	J A山形おきたま飯豊地区青年部(山形県)	シン・東京米物語 ～交流の力でコロナ禍と大水害を乗り越えろ～
2024(令和6)年度	J A横浜青壮年部都田支部(神奈川県)	農福のトリセツ ～新たな挑戦「横浜モデル」～

J A 青年の主張全国大会 最優秀賞(J A全中会長賞)受賞者一覧

—2015(平成27)～2024(令和6)年度—

農業・JA・青年組織・農業経営に関する将来に向けた希望・意見・提言を行う全国6ブロックの代表(個人)による発表全国大会。
1979(昭和54)年度全青協創立25周年記念第26回全国農協青年大会で、JA青年組織活動実績発表全国大会と併せて開催。
1984(昭和59)年度全青協創立30周年記念第31回全国農協青年大会より継続実施。
1985(昭和60)年度第32回全国農協青年大会より最優秀賞として「全青協委員長特別賞」を創設。
1992(平成4)年度第39回全国農協青年大会より「JA全中会長賞」に名称変更。

年度	組織	発表者	発表題目
2015(平成27)年度	J Aひだ青年部(岐阜県)	清水 琢也	超限界集落の中心で、魅力ある農業をさげふ
2016(平成28)年度	J A東西しらかわ青年連盟(福島県)	菊池 一裕	地域のつながりに、いのちを預ける
2017(平成29)年度	J Aならけん青壮年部(奈良県)	吉田 宜史	柿と共に ～産地ファースト 品質が信頼を、信頼が未来を創る～
2018(平成30)年度	J A鹿本青年部(熊本県)	横田 大輔	変化と共に ～希望の未来人(後継者)をもてナス～
2019(令和元)年度	J A鹿本青年部山本支部(熊本県)	原田 実	受け継いでいくもの
2020(令和2)年度	J A会津よつば青壮年部只見支部(福島県)	吉津 紘二	オールドルーキー
2021(令和3)年度	J A山形おきたま川西地区青年部吉島支部(山形県)	佐藤 悠	未来へつなぐ農業
2022(令和4)年度	J A摩周湖青年部(北海道)	牧之瀬 佳貴	より魅力ある新規就農から地方創生を考える
2023(令和5)年度	J A南彩青年部(埼玉県)	吉田 雅	農福連携への挑戦 未来に向かってステップアップ
2024(令和6)年度	J Aあきた北青年部(秋田県)	谷本 弾	Project 0

JA 青年組織PR動画コンテスト 最優秀賞受賞組織一覧

—2021(令和3)～2024(令和6)年度—

2021(令和3)年度 | 静岡県 | JA静岡青壮年連盟

 最優秀賞



THE SOUND OF FARMER'S

盟友が行うふだんの農作業風景を臨場感あふれる映像を通じて表現。農業の魅力を存分に引き出した動画です。



2022(令和4)年度 | 愛媛県 | 西宇和青壮年同志会

 最優秀賞



継なぐ

「農」だけでなく「地域との関わり」を通じて、新規就農希望者や研修生にも視聴してもらい、農の魅力発信につなげます。



2023(令和5)年度 | 福岡県 | JAにじ青年部

 最優秀賞



「農」を通じて 「ふるさと」をまもっていく。

農業を通じ、技術の継承、発展、および景観維持、環境保全を担い、ふるさとを守っていききたいという思いを訴えます。



2024(令和6)年度 | 栃木県 | JAしおのや青年部高根沢支部

 最優秀賞



農業ってかっこいい。

農業に従事する若者の情熱や努力、農業の楽しさを臨場感たっぷりに映し出すことで、農の魅力を伝えていきます。



J A 青年組織手づくり看板 全国コンクール最優秀賞受賞一覧

—2015 (平成 27)～2024 (令和 6) 年度—

2017 年度
(平成 29)

J A みやぎ仙南
川崎地区青年部
(宮城県)



2015 年度
(平成 27)

J A 東京あおば
青壮年組織協議会
(東京都)



2018 年度
(平成 30)

J A 三次青壮年連盟
(広島県)



2016 年度
(平成 28)

J A 津軽みらい
青年部松崎支部
(青森県)



2022 年度
(令和 4)

J A 佐渡青年部
(新潟県)



2019 年度
(令和元)

J A テラル越前
村岡青壮年部
(福井県)



2023 年度
(令和 5)

J A 東京むさし
国分寺地区青壮年部
(東京都)



2020 年度
(令和 2)

J A あいら青年部
(鹿児島県)



2024 年度
(令和 6)

J A 伊万里青年部大川支部
(佐賀県)



2021 年度
(令和 3)

J A 伊万里
青年部南波多支部
(佐賀県)



JA全青協歴代役員名簿

—2015(平成27)～2024(令和6)年度—

(注) 会長・副会長欄の◎印は会長、○印は副会長

年 度	会長・副会長	理事		監事
2015 (平成27)	◎天笠 淳家(群馬県) ○善積 智晃(熊本県)	齊藤 和弘(北海道) 飯野 芳彦(埼玉県) 田中 弘樹(三重県)	原 智宏(兵庫県) 中村 幸司(広島県) 横尾 隆登(佐賀県)	石垣 博隆(秋田県) 長尾 正人(愛媛県)
2016 (平成28)	◎善積 智晃(熊本県) ○相澤 宏樹(宮城県) ○飯野 芳彦(埼玉県)	安田 淳一(秋田県) 平野 一裕(千葉県) 加藤 秀明(愛知県)	西山 和人(京都府) 佐々木 貴裕(島根県) 大山 雅行(宮崎県)	野村 久良(岐阜県) 井上 幸一(兵庫県)
2017 (平成29)	◎飯野 芳彦(埼玉県) ○水野 喜徳(群馬県) ○大山 雅行(宮崎県)	鈴木 貴郎(宮城県) 金井 健(神奈川県) 大久保 光太(富山県)	小林 大将(和歌山県) 西尾 祥幸(鳥取県) 大塚 公一(鹿児島県)	渡部 一敏(山形県) 高原 弘雅(岡山県)
2018 (平成30)	◎水野 喜徳(群馬県) ○今野 邦仁(北海道) ○谷 学(京都府)	草野 城太郎(福島県) 馬場 裕真(東京都) 杉山 祥文(静岡県)	岡本 祥明(奈良県) 枝川 博嗣(徳島県) 前本 勝(熊本県)	米田 達弥(三重県) 木佐貫 智嗣(宮崎県)
2019 (令和元)	◎今野 邦仁(北海道) ○杉山 祥文(静岡県) ○小林 大将(和歌山県)	佐川 長範(秋田県) 柿嵩 洋一(長野県) 半田 孝則(愛知県)	河南 聡寿(滋賀県) 高原 弘雅(岡山県) 田中 圭介(福岡県)	須藤 金一(東京都) 潮 隆博(鳥取県)
2020 (令和2)	◎田中 圭介(福岡県) ○柿嵩 洋一(長野県) ○高原 弘雅(岡山県)	浪岡 篤志(青森県) 桑原 宏太(新潟県) 竹内 孝輔(福井県)	草竹 茂樹(大阪府) 潮 隆博(鳥取県) 田邊 貴紀(宮崎県)	村田 辰徳(北海道) 中早 大将(和歌山県)
2021 (令和3)	◎柿嵩 洋一(長野県) ○佐藤 崇史(岩手県) ○高原 弘雅(岡山県)	稲村 政崇(北海道) 飯田 勝市(栃木県) 高木 謙太郎(富山県)	都倉 貴博(兵庫県) 草野 拓志(島根県) 前原 祐樹(鹿児島県)	高本 祐輔(石川県) 石本 勝也(熊本県)
2022 (令和4)	◎佐藤 崇史(岩手県) ○稲村 政崇(北海道) ○都倉 貴博(兵庫県)	折笠 明憲(福島県) 八高 啓輔(群馬県) 北川 敏匡(三重県)	渡邊 幸浩(京都府) 武内 誠(広島県) 前原 祐樹(鹿児島県)	酒井 雅博(東京都) 久芳 勝彦(山口県)
2023 (令和5)	◎稲村 政崇(北海道) ○酒井 雅博(東京都) ○前原 祐樹(鹿児島県)	五日市 達洋(岩手県) 萩谷 龍司(茨城県) 高本 祐輔(石川県)	中早 大将(和歌山県) 武内 誠(広島県) 堤 祐輔(佐賀県)	齊藤 拓(秋田県) 下中 豊久(奈良県)
2024 (令和6)	◎酒井 雅博(東京都) ○北川 敏匡(三重県) ○武内 誠(広島県)	星 敬介(福島県) 原 直樹(埼玉県) 桜井 亮平(静岡県)	下中 豊久(奈良県) 赤松 英雄(岡山県) 坂本 裕之(宮崎県)	湯ノ口 純也(滋賀県) 今村 和也(鹿児島県)

JA青年の歌 「君と」

作詞：一色 薫
作曲：千葉一弘
編曲：矢野立美

A



は るかな あ おぞらー きみ とかわす ほほ え みよー つば



さひろげ とび たつように この おもい たか まってー

A



お それる こ となく とき をこえる き みとともに ゆめ



をもとめ かた りあかした せい しゅんは かぎりなく だ か ら

C



はるなつあきふゆ あ たらしいのち だいじにそだてて いこう そして



よろこびかなしみ きみとわかちあい しあわせきずいて いこう

JA青年の歌「君と」

遙かな青空
君と交わす 微笑みよ
翼ひろげ 飛び立つように
この思い高まって

恐れることなく
世代を超える 君とともに
夢を求め 語り明かした
青春は限りなく

※だから 春夏秋冬
あたらしい生命 大事に育てていこう
そして 喜び悲しみ
君とわかち合い 幸せ築いていこう

未来の果てまで
愛を唄う ゆりかごよ
風にそよぐ 緑の大地
すこやかに やすらかに
挫けることなく
生きていこう 君とともに
力強く かけがえのない
青春はいつまでも

※※だから 春夏秋冬
ありがとう込めて やさしさ伝えていこう
そして いつかはこの日を
君と思い出す 輝く大地に立って
(※印くりかえし)
(※※印くりかえし)



JA全青協創立70周年記念誌

～70年のありがとう、そしてみらいへ～

2025年10月発行

編集・発行

全国農協青年組織協議会（JA全青協）

東京都千代田区大手町1丁目3番1号（JAビル）

TEL：03-6665-6202

制作協力

一般社団法人 家の光協会

印刷

株式会社 東京印書館

製本

家の光製本梱包株式会社
